

七 X 421

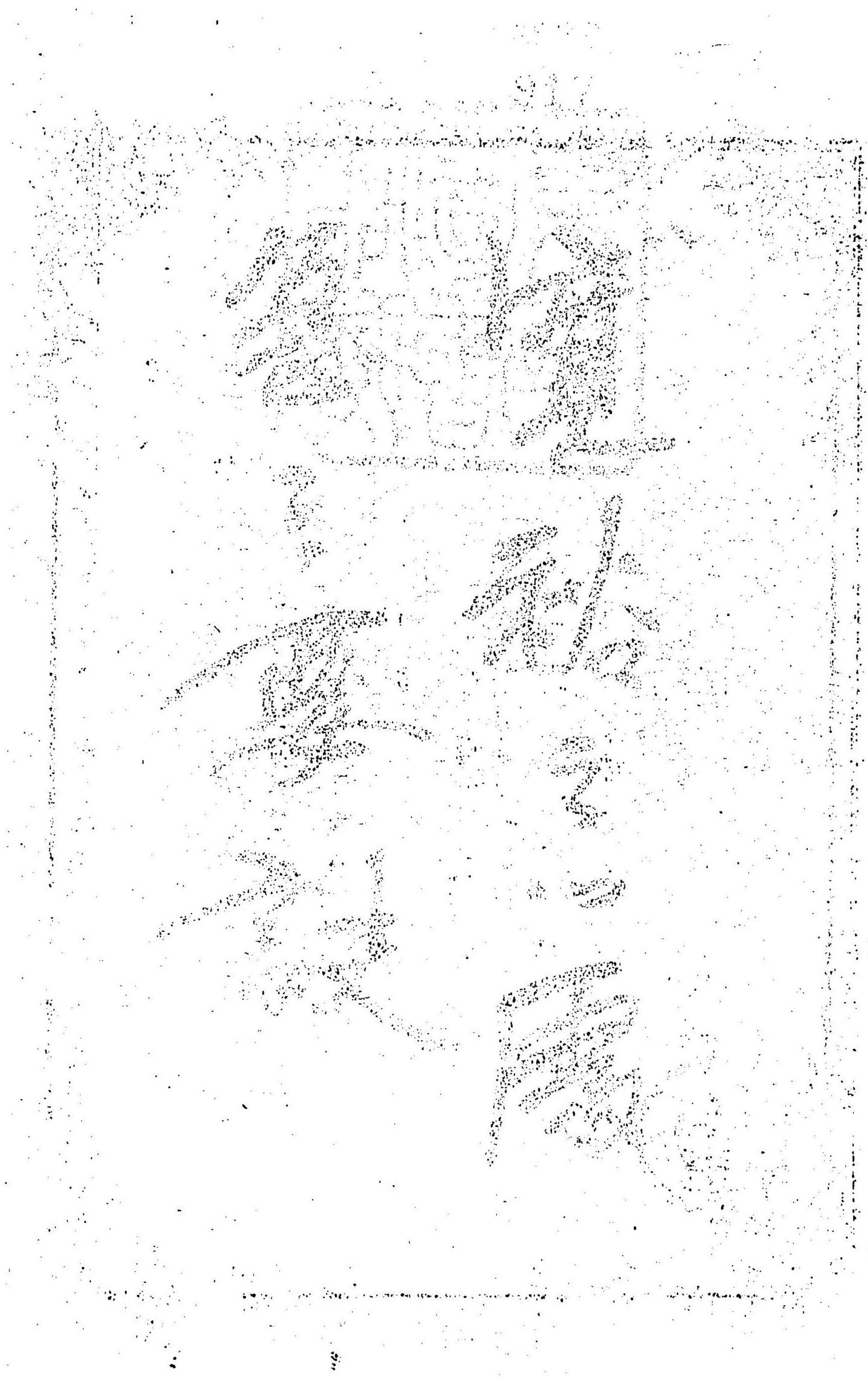
135
145

救急法

全

從山形縣警部六等長 田野熾題
 山形縣勸業課長 山宮成一序
 衛生課長 武田坦校訂
 醫學士

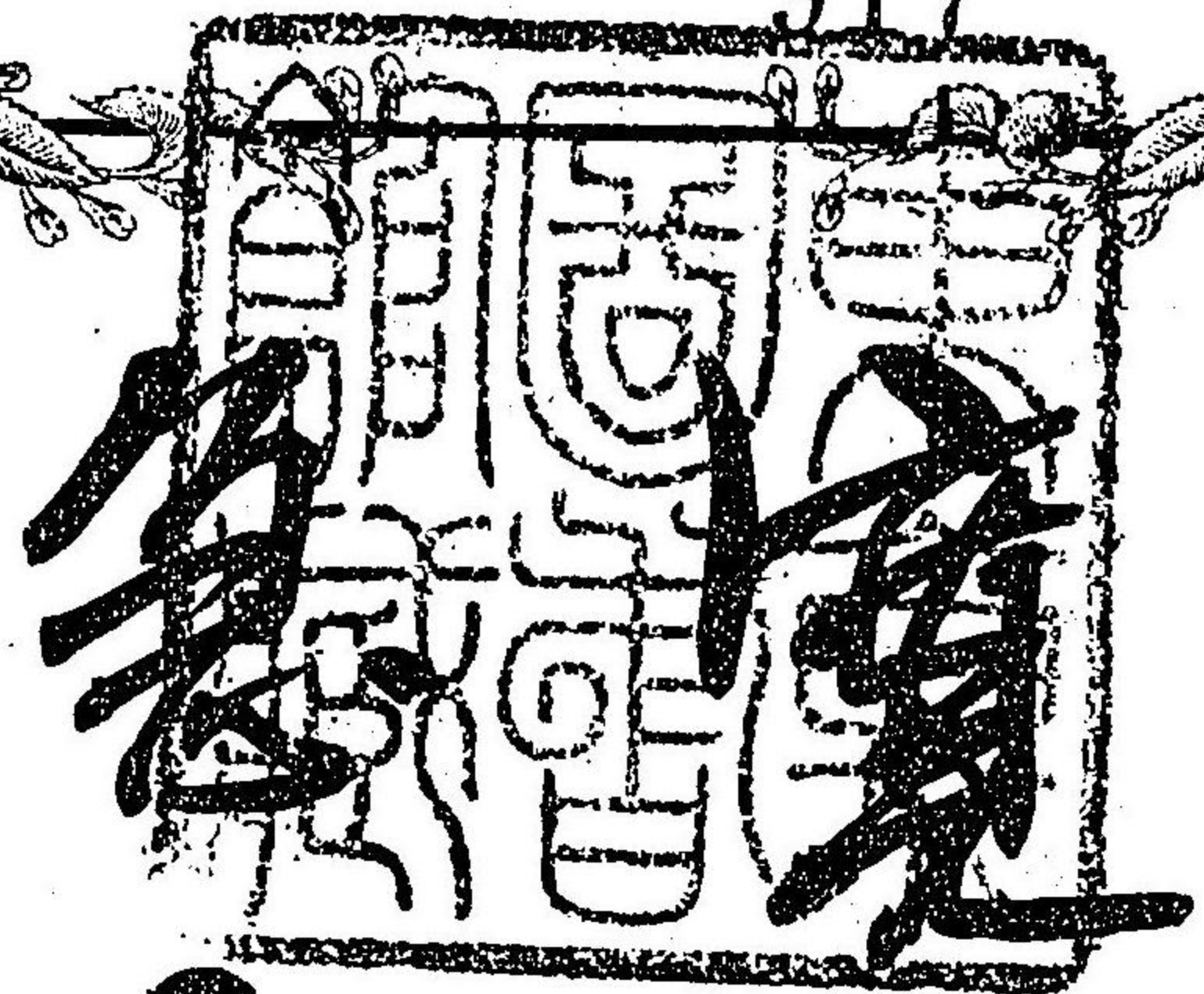
內務省衛生局 技師從六位 後藤新平閱
 山形縣警部保安課長 兼警務課長 下山貫雄閱
 山形縣警部 巡查教習所教官 萩原貞編纂



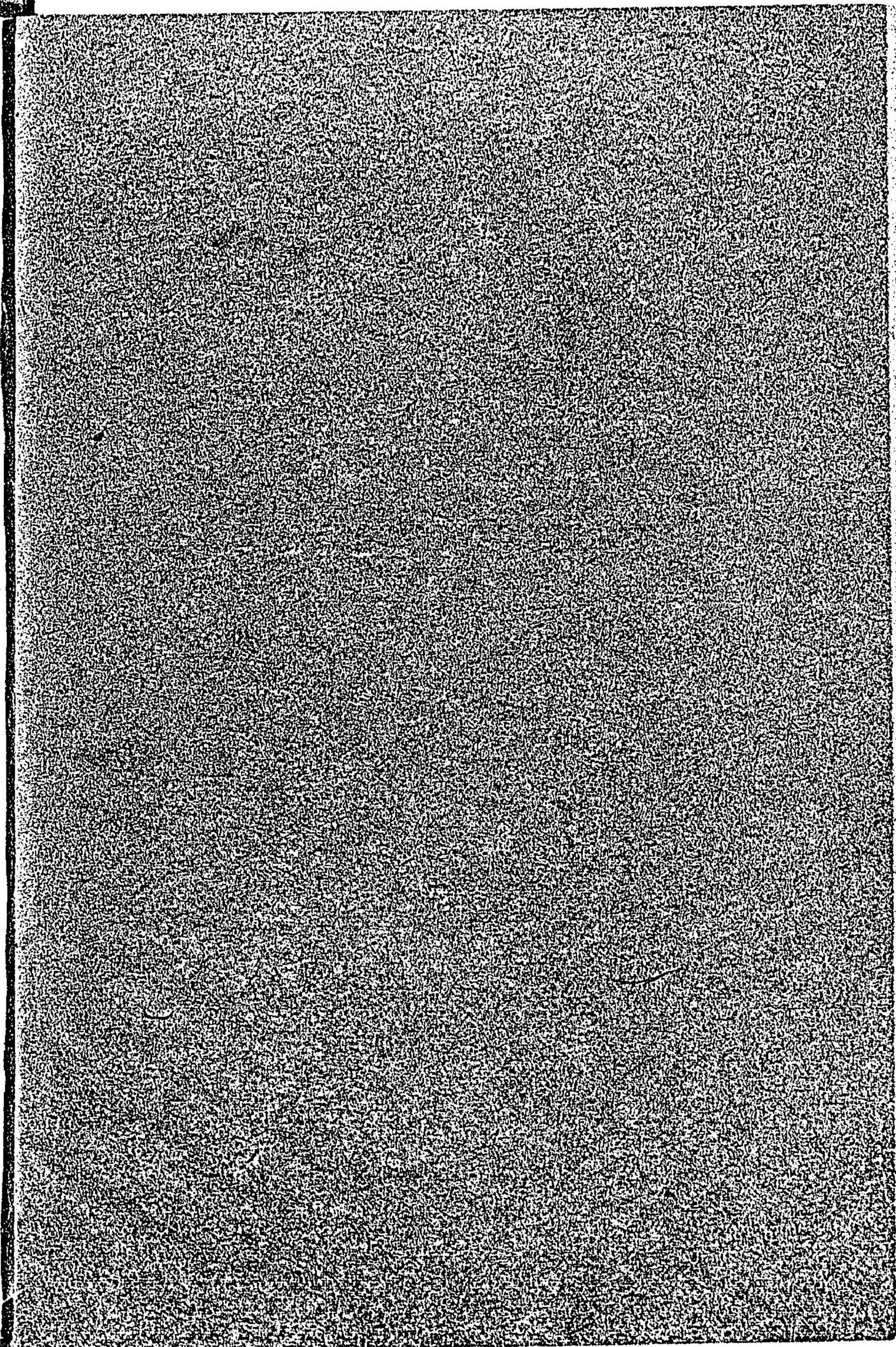
特29.

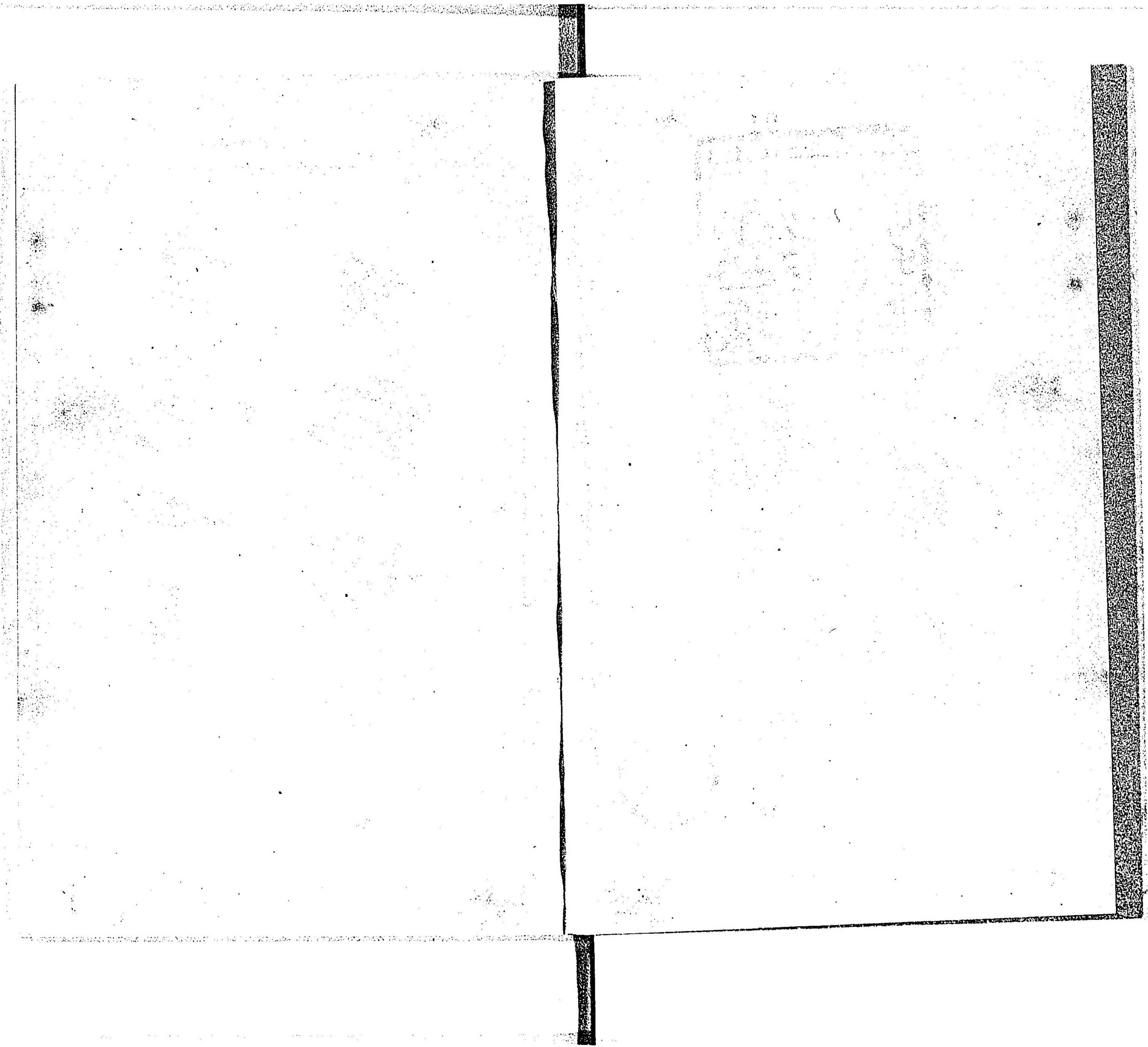
917

No 6649/23

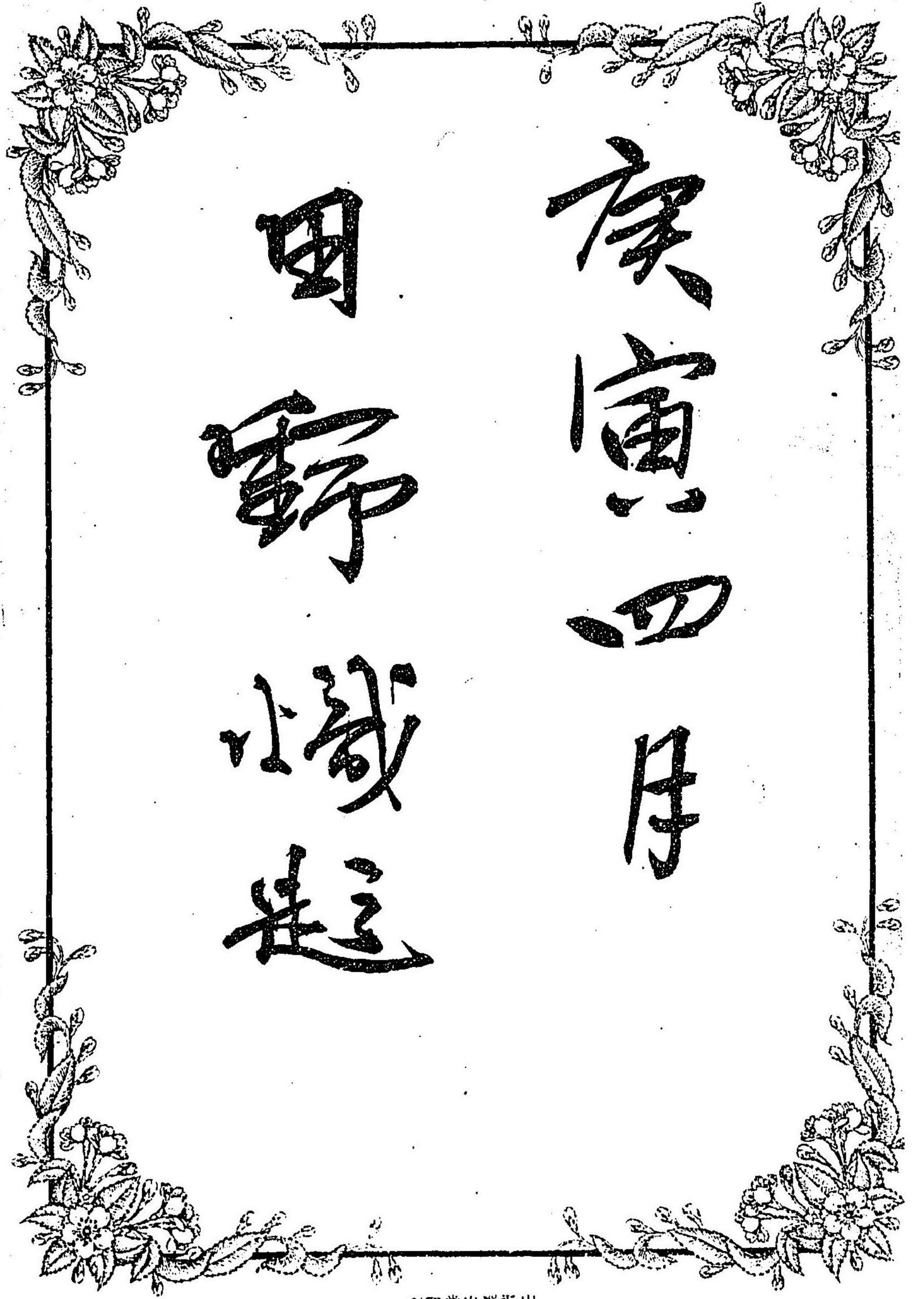


秋
 之
 慶
 要
 鼓





Text on the left side, appearing as a dense, textured block of characters, possibly bleed-through or a separate page of text.



庚寅四月

田新成起

人之在世。不能保無不虞之變。急性之疾。一旦有不虞之變。急性之疾。苟救濟不得其方。則醫療失其機。遂致不可救焉。頃。菽原氏編救急法一卷。屬序。余其文簡約。而其方詳密。切中肯綮。便衆知之。則其裨益於世大矣。豈啻裨益警察哉。方今醫術日進。藥品日精。講其道者

日益多。其著書汗牛充棟。而方急劇不暇延醫。講處之方者甚鮮矣。可謂盛世之一欽點也。是所以有此書之編纂歟。余嘉其舉一言以題卷首。

明治二十三年四月中浣

山宮咸一撰

緒言

凡ソ人命ノ急變ニ際シ速ニ醫師ヲ迎フルヲ能ハサル場合尠ナカラス故ニ人々ヲシテ救急療法ヲ知ラシムルハ甚々緊要ナリ負傷者ノ昇送若シクハ創傷血止等ノ如キモ方法其宜キヲ得ス徒ニ其機ヲ失スルキハ醫師ト雖モ亦之ヲ如何トモスル能ハス獨逸ノ如キ國手輩出其伯林府ニハ數千ノ醫師アリシモ當時救急法ノ學科ヲ講セザリシニヨリ軍人落馬シテ骨折傷ヲ負ヒシヲ病院へ昇送ノ際其折レタル骨尖皮膚ヲ破リ傷面ヨリ空氣中ナル有害物〔即チ有害菌〕竄入其患部ノ腐敗ヲ醸シ終ニ死ニ致セシ一アリ爾來其國陸軍々醫「エスマルヒ」氏奮テ救急法ノ學

科ヲ研究シ廣ク會員ヲ募リ之ヲ授ケタリ或ル時池水ニ溺没セシモノアリ該會員之ヲ蘇生セシム又消防夫火煙ノ爲メ窒息シテ死ニ瀕セシヲ救濟セシ等其ノ世ニ裨益ヲ與ヘタル少ナガラズ因リテ獨逸皇帝陛下「エスマルヒ」氏ノ功ヲ賞賛セラレタリト救急ノ法豈忽諸ニ附スヘケンヤ余嘗テ警務要書ニ就キ其大略ヲ了セリ後東京警官練習所學生タリシキ教官後藤新平君衛生制度ヲ講演セラル、ニ當リ警察官ハ人命急變ノ場合ニ遭遇シ救急療法ヲ熟知セサレハ其職務ヲ全スルヲ能ハスト云ヲ以テセラル是ニ於テ余更ニ感激公務ノ餘暇其講演ノ要ヲ編纂シ同感ノ士ニ頒タント之ヲ課長下山氏ニ謀ル氏曰ク

巡査ハ勿論鐵道吏員航海師其他人々ノ須ク研究スヘキ所タリ其書果シテ成ラハ大ニ裨益スル所アラント是ニ於テ直チニ編纂ニ着手茲ニ其業ヲ卒フ希クハ讀者余ノ苦心ヲ空フセサラントナ

明治廿三年三月

編者識

救急法

目次

○ 參考人體圖

○ 關節傷

- (1) 關節轉捩傷
- (2) 關節脫臼傷 附 關節圖
- (3) 骨傷 附 副木繃帶方法圖

○ 創傷

- (1) 創傷 止血方法圖

○ 火傷

- (1) 火傷

○ 繃帶纏絡方法圖

○中毒

- (1) 毒虫ノ中毒
- (2) 木茸ノ中毒
- (3) 鳥獸魚介ノ中毒
- (4) 毒藥、劇藥ノ中毒

○失神

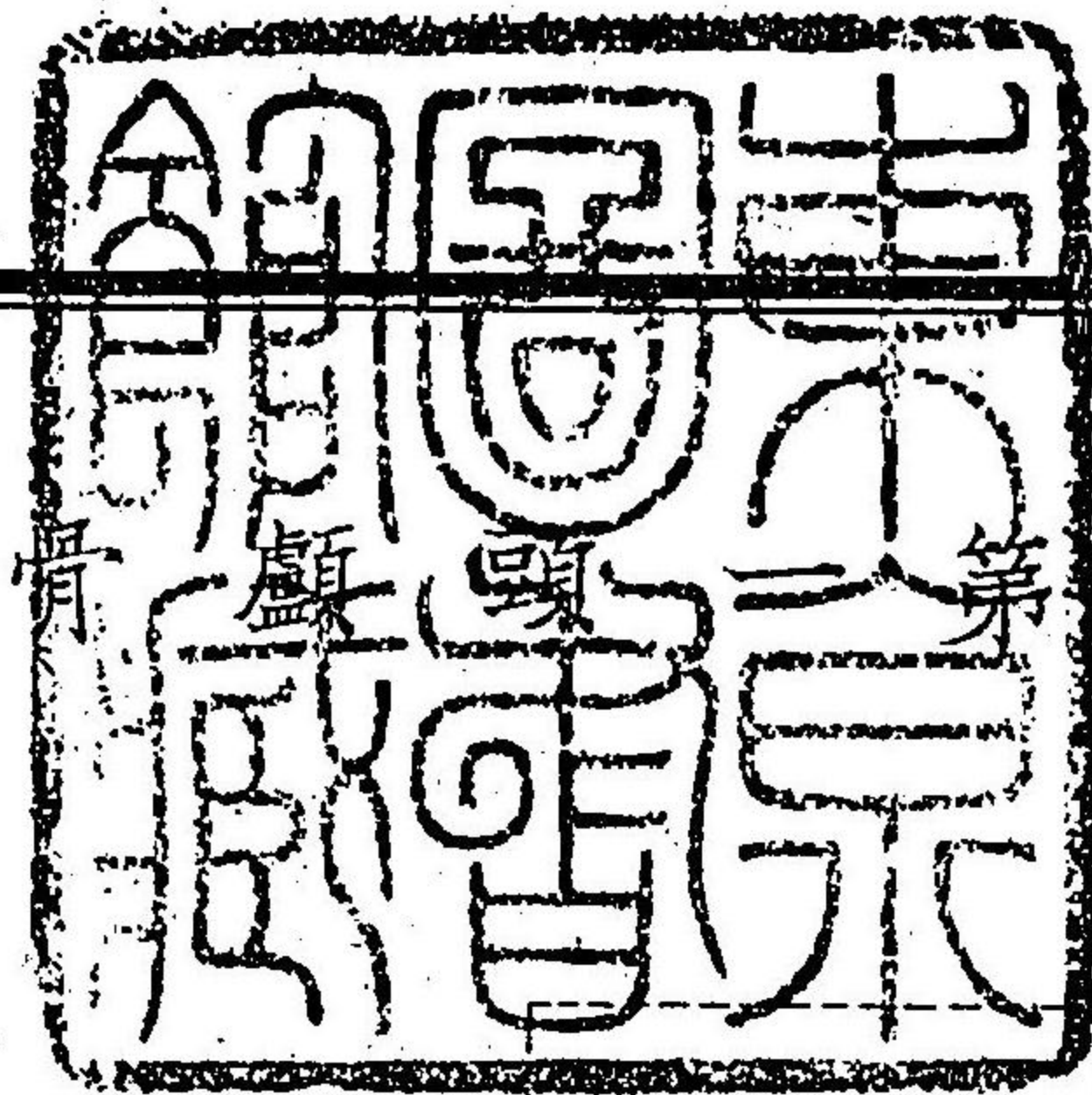
○假死附假死ト真死ノ鑑別法

○人工呼吸ノ方法

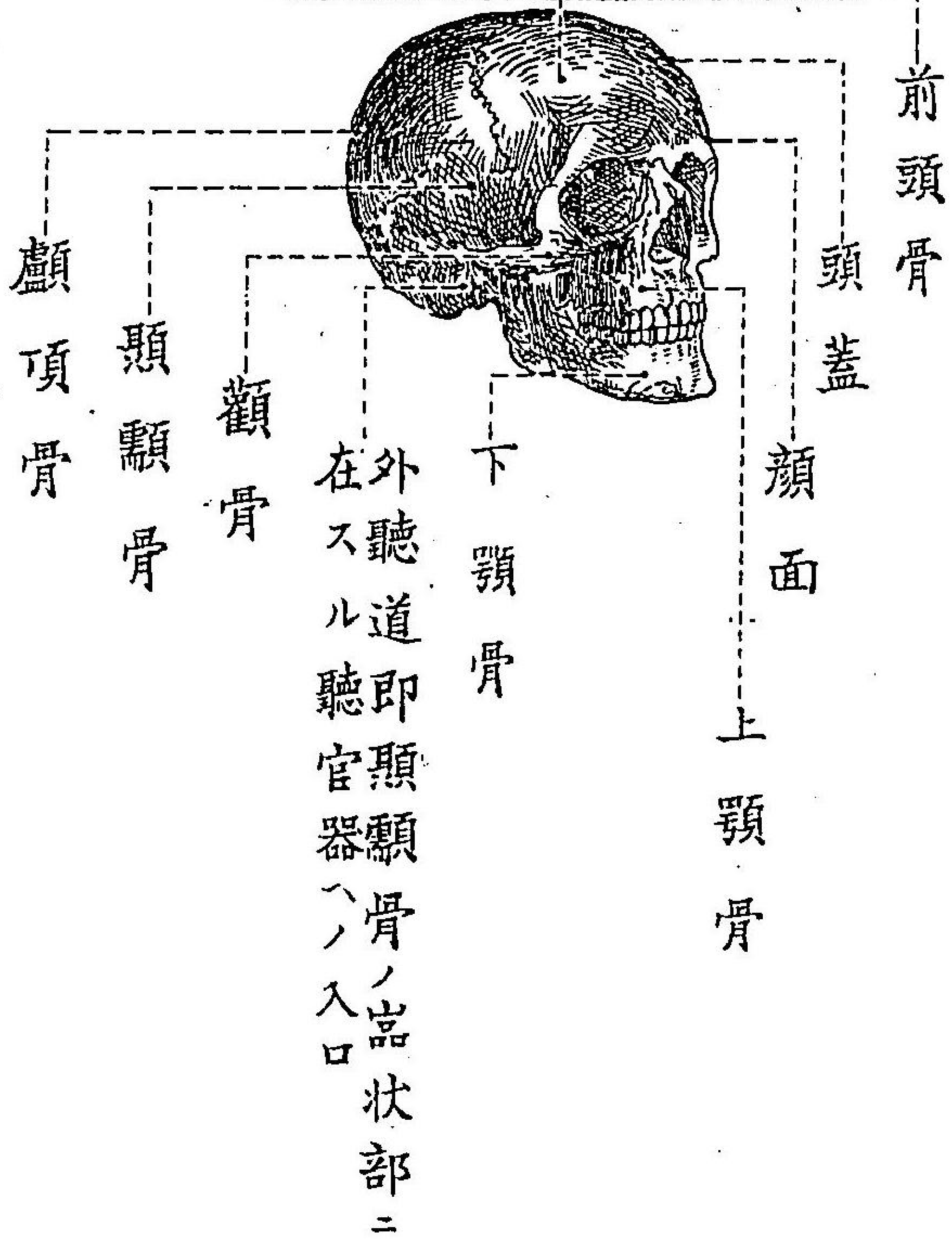
- (1) 氣道ヲ刺戟スル法
- (2) 大氣吹入法 附 人工呼吸法ノ圖
- (3) 溺死者ノ人工呼吸法
- (4) 絞死縊死

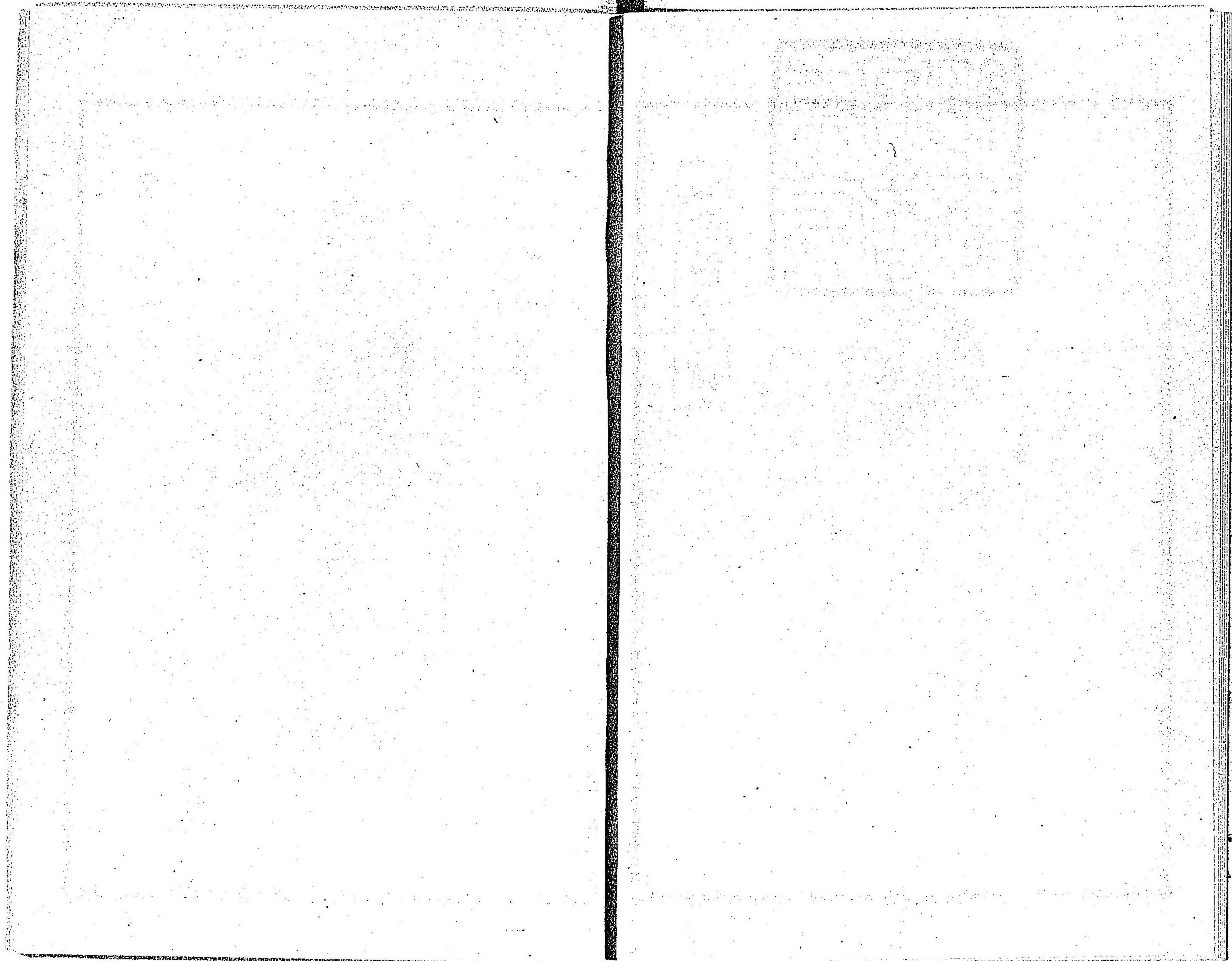
- (5) 溺死
- (6) 窒息
- (7) 電撃
- (8) 凍死
- (9) 小兒ノ假死
- (10) 卒中

救急法目次終

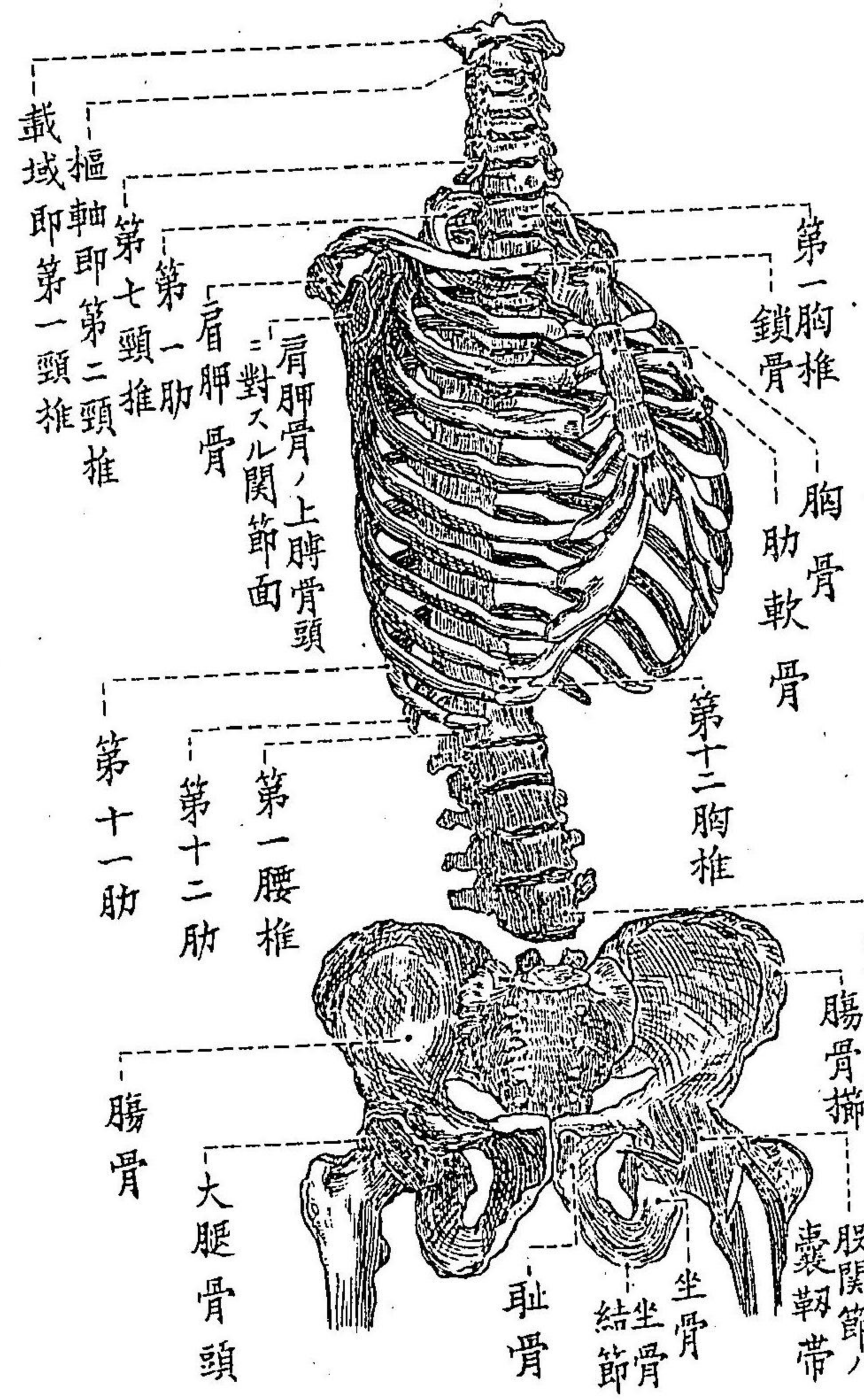


救急法参考圖



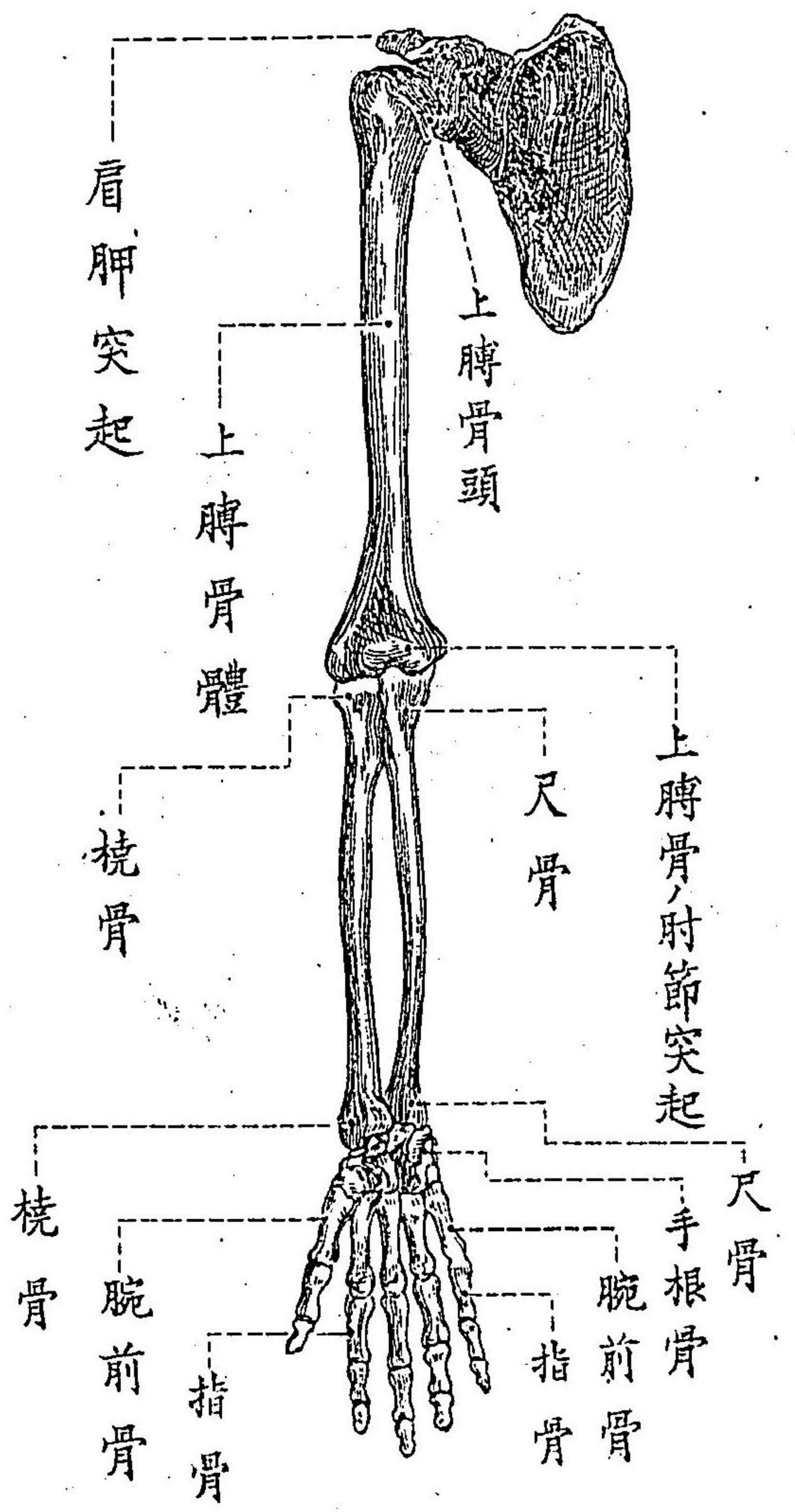


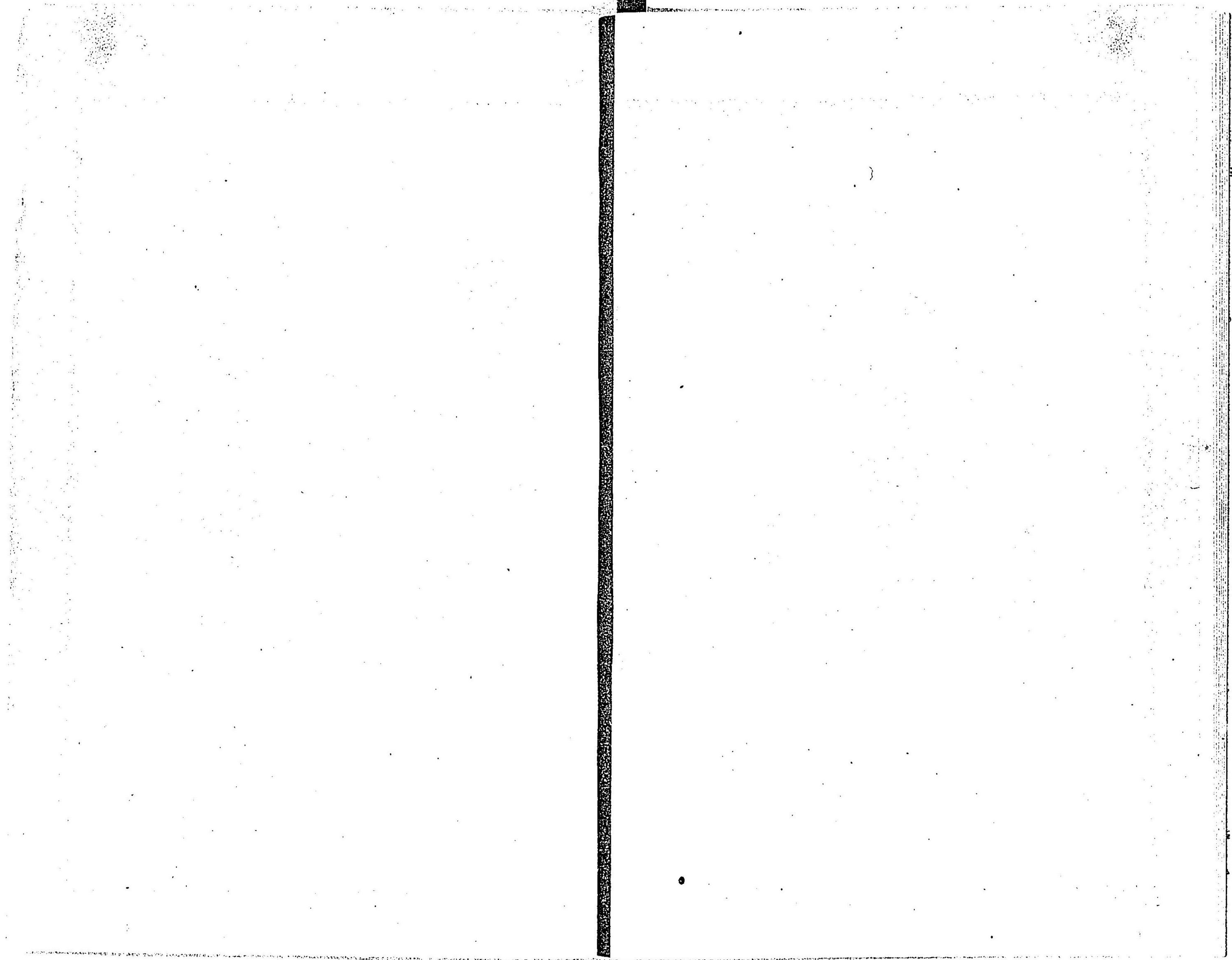
第二軀幹骨



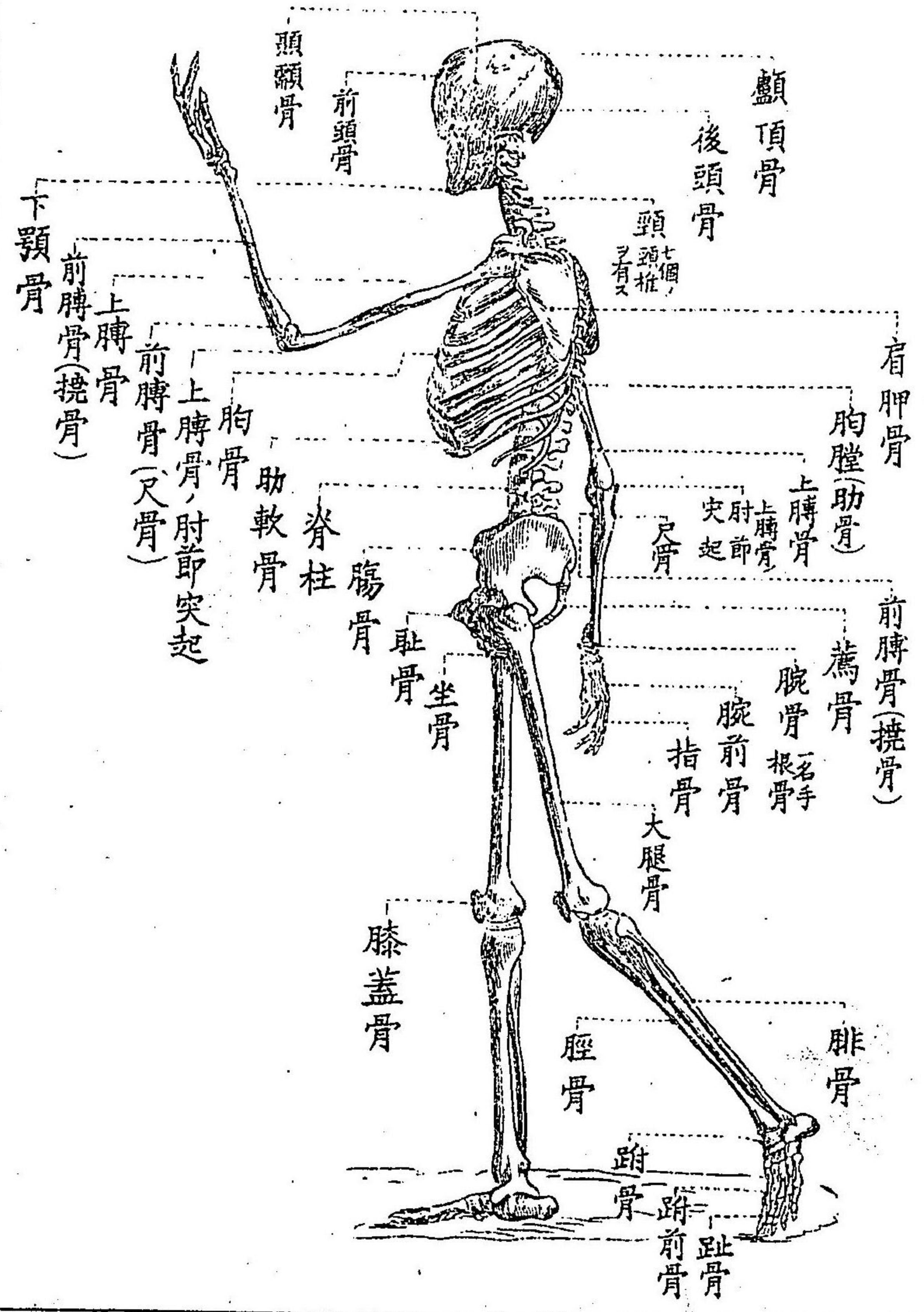
第三骨盤

第四右四肢骨



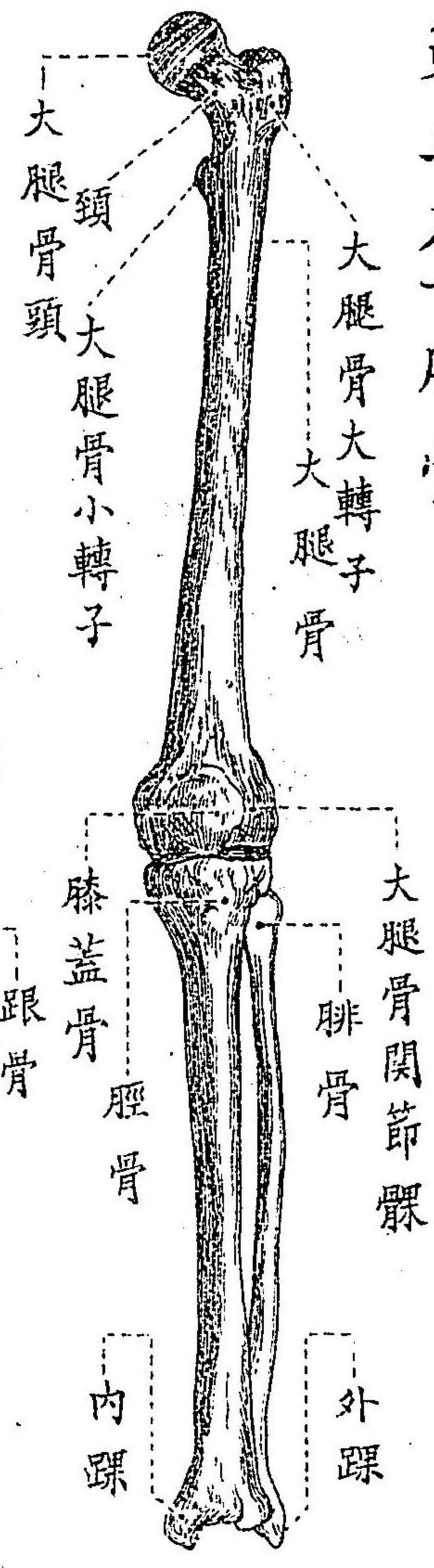


者ル見リヨ方側ヲ髌骨



山形山山山山

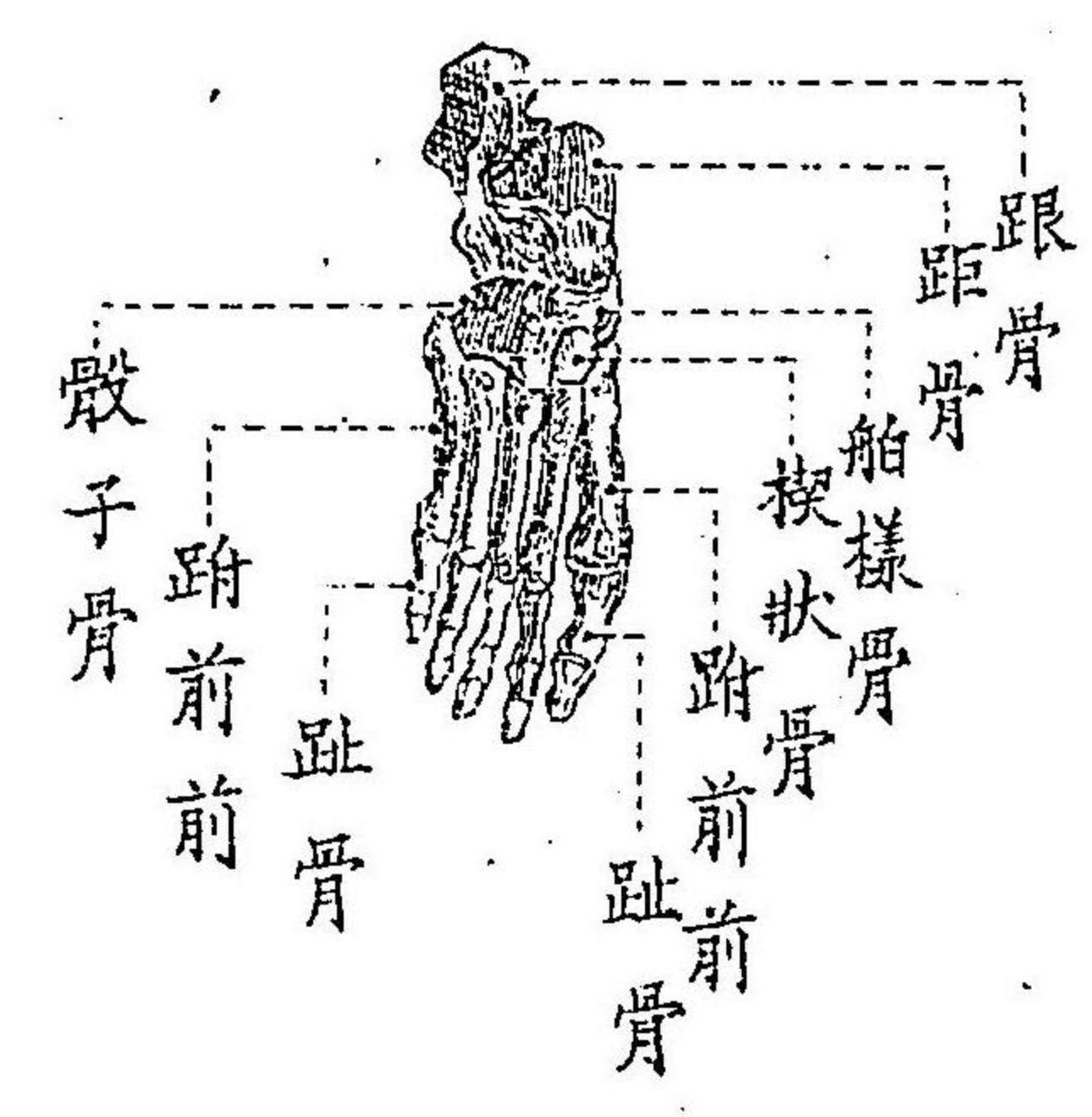
第五左下肢骨



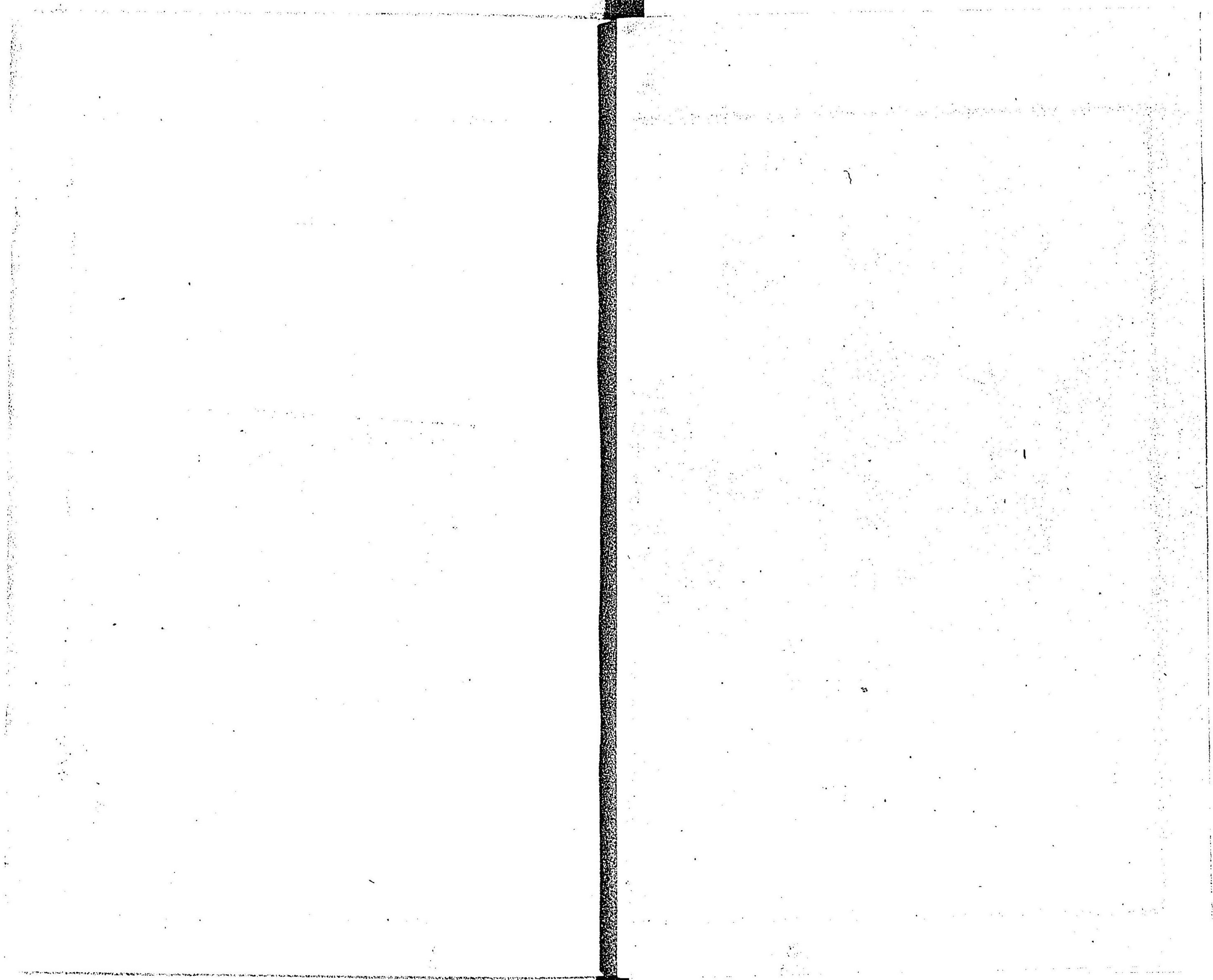
第六膝關節ヲ開放シ
後方ヨリ見ル者



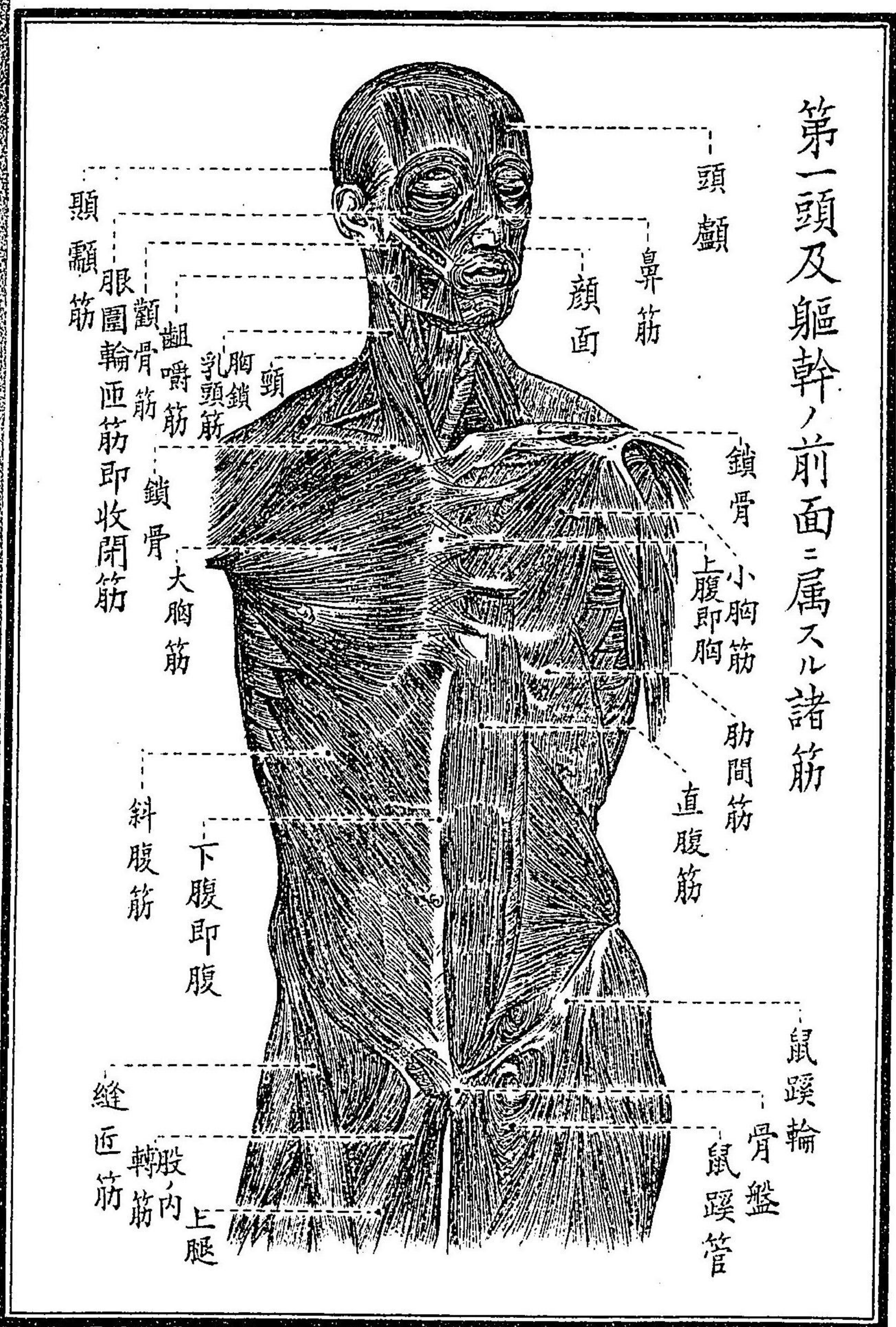
第七足骨 右足背面ヲ示ス



山形山山山山

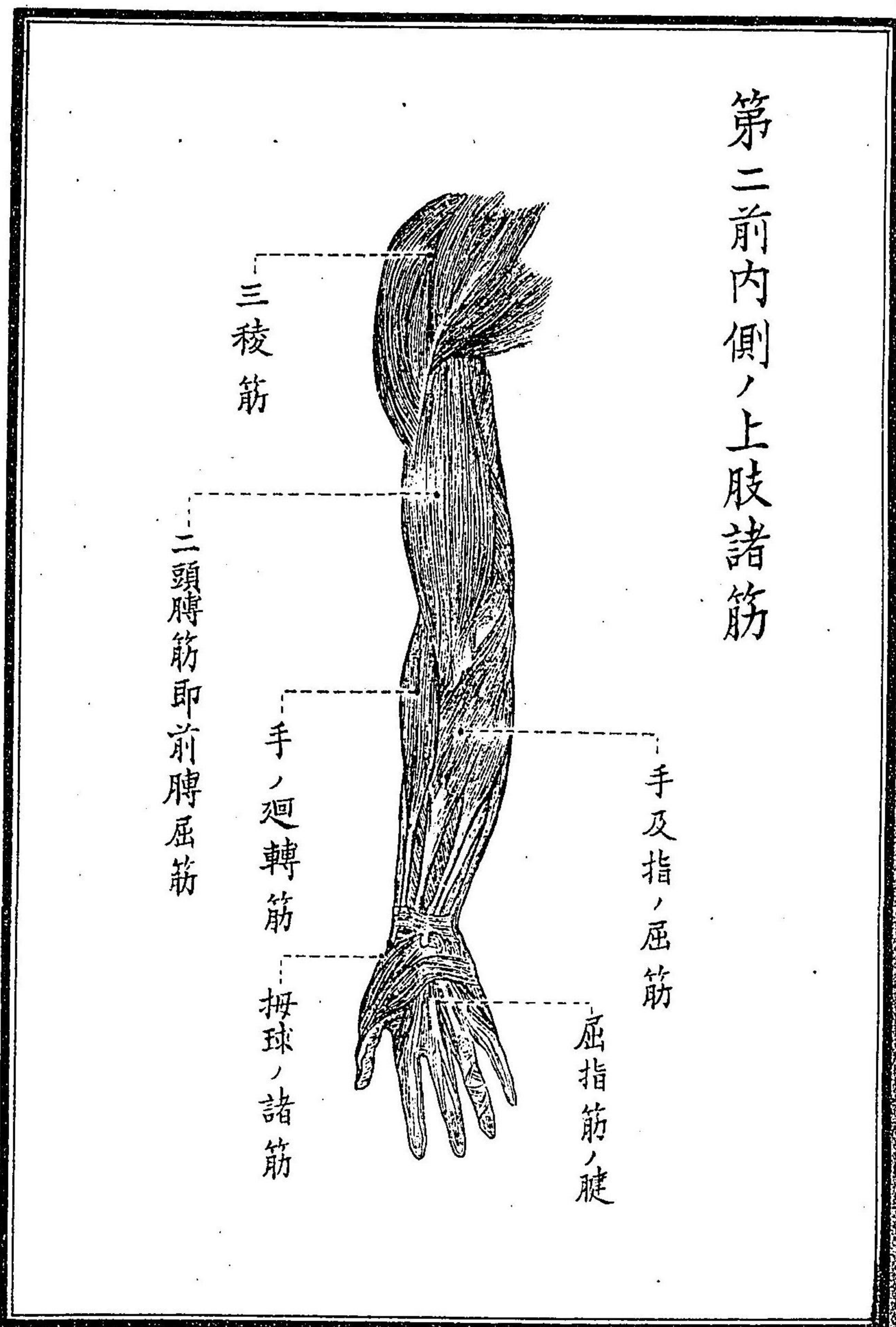


第一頭及軀幹之前面ニ属スル諸筋

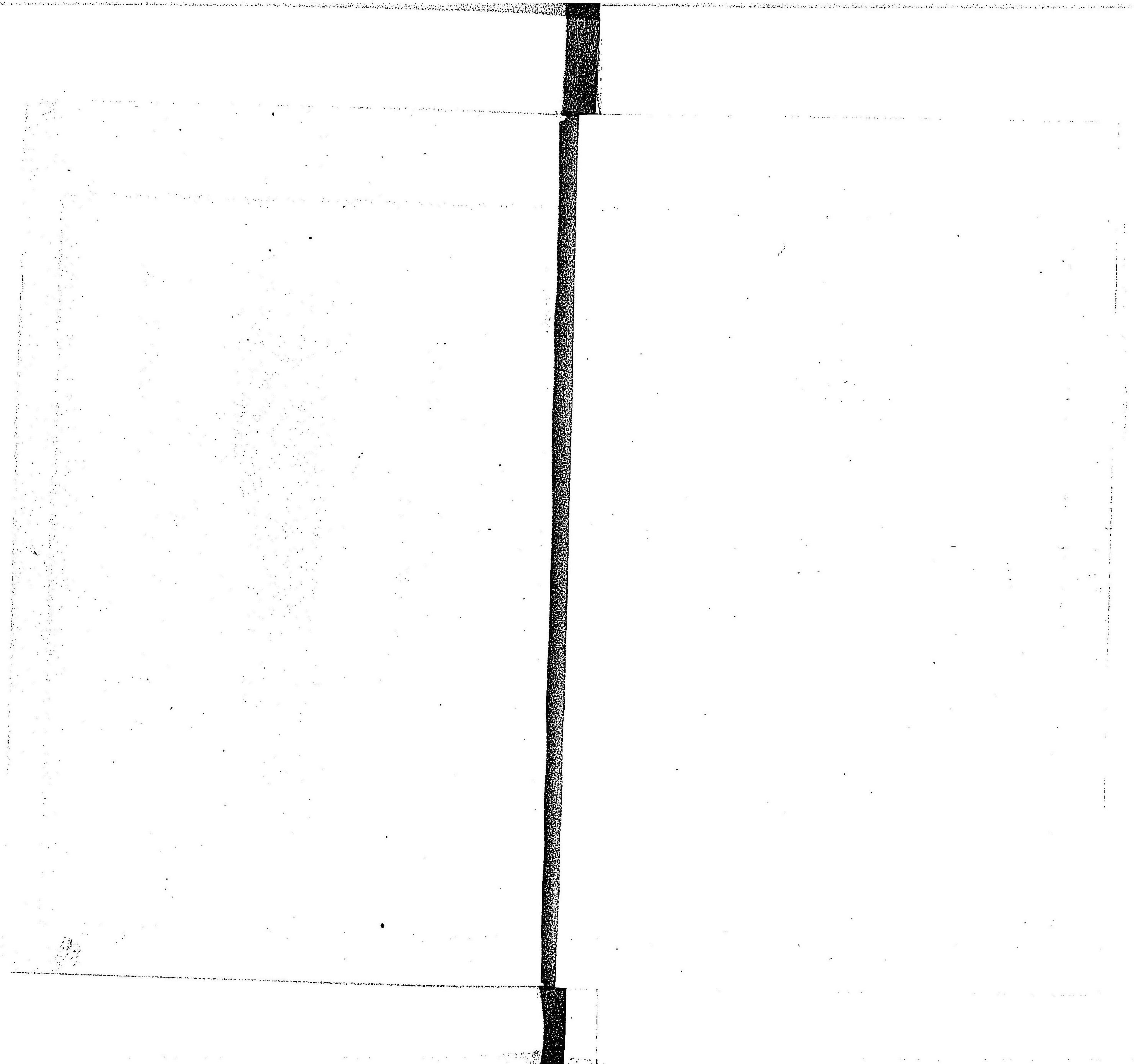


山形野山堂印

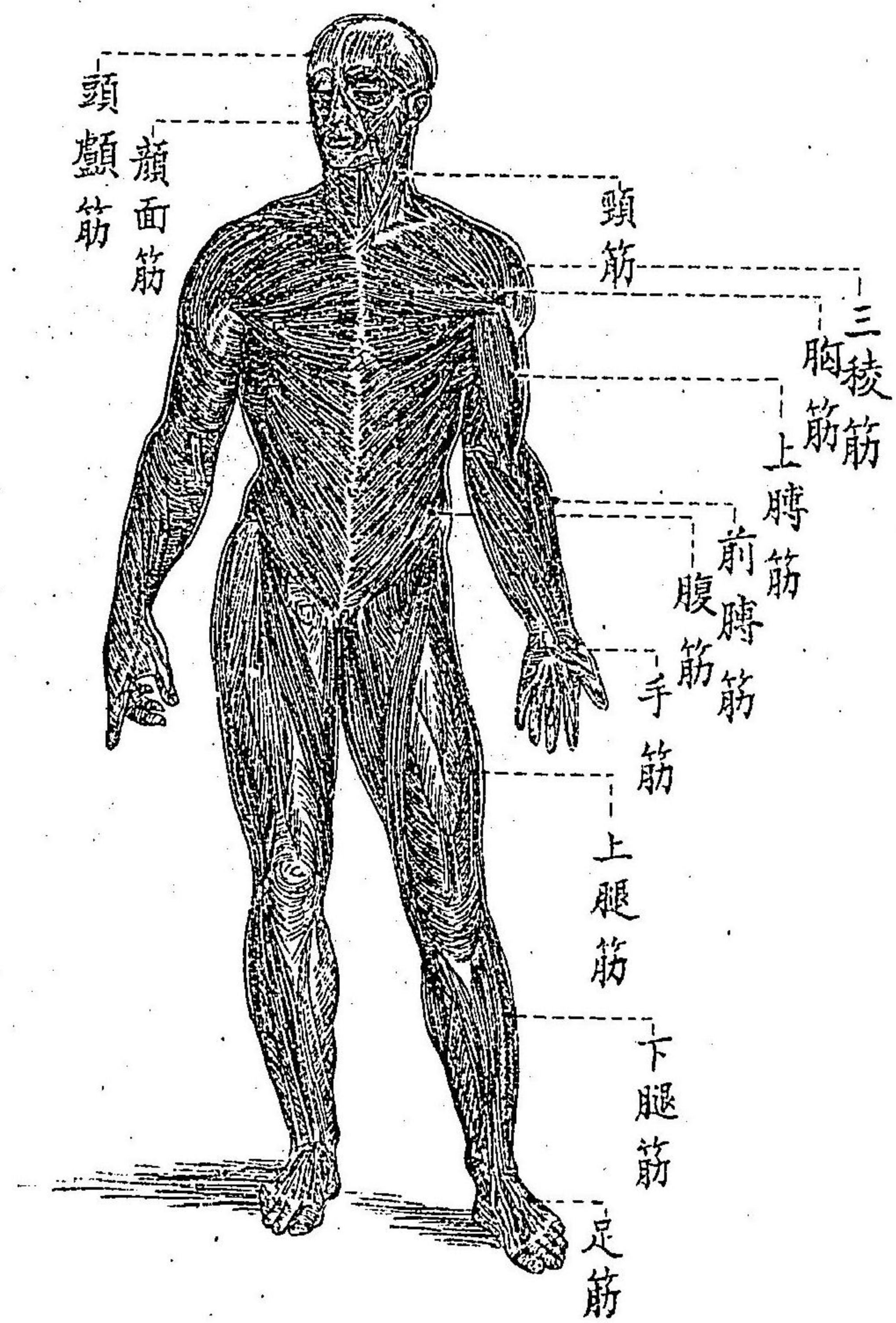
第二前内側ノ上肢諸筋



山形野山堂印

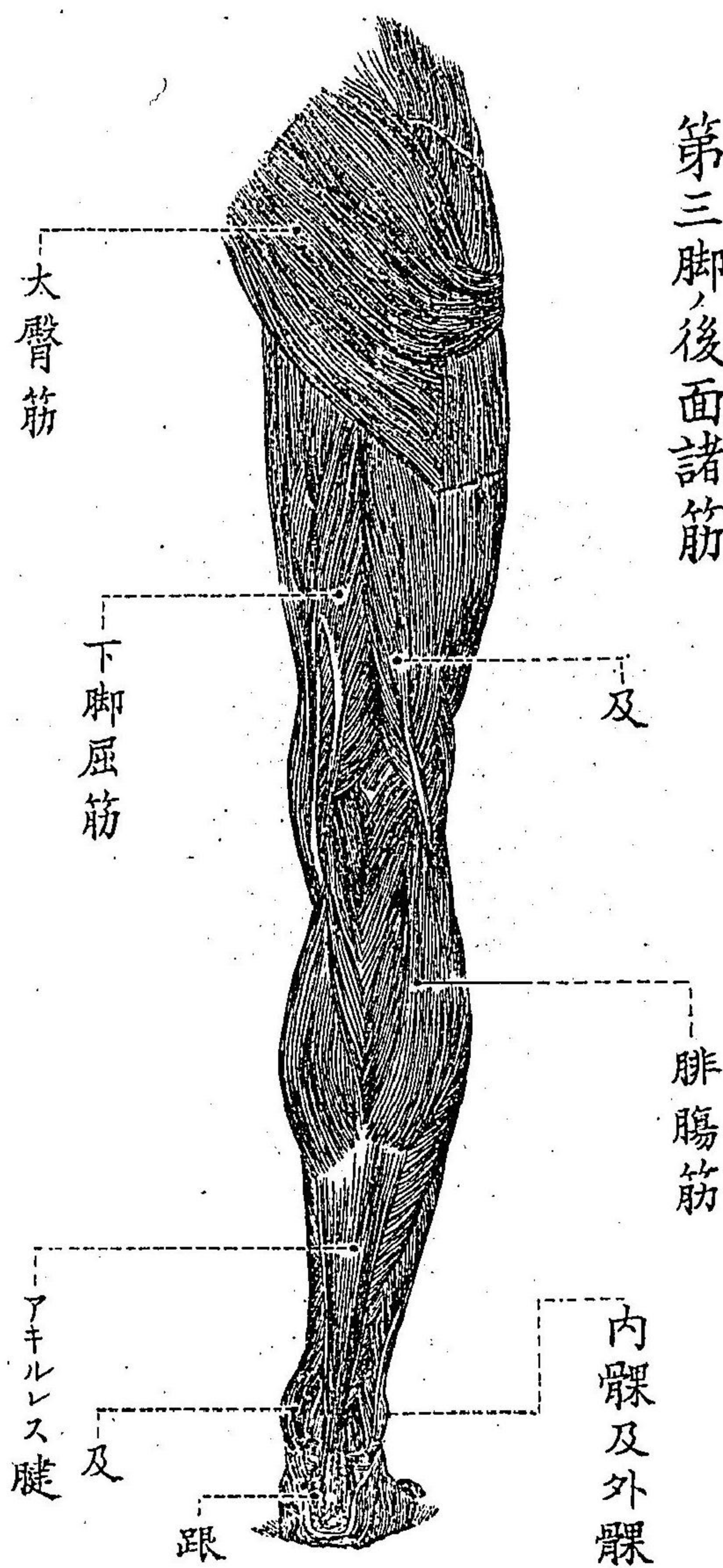


リ十事ノ肉ハト筋 圖ノ筋面前

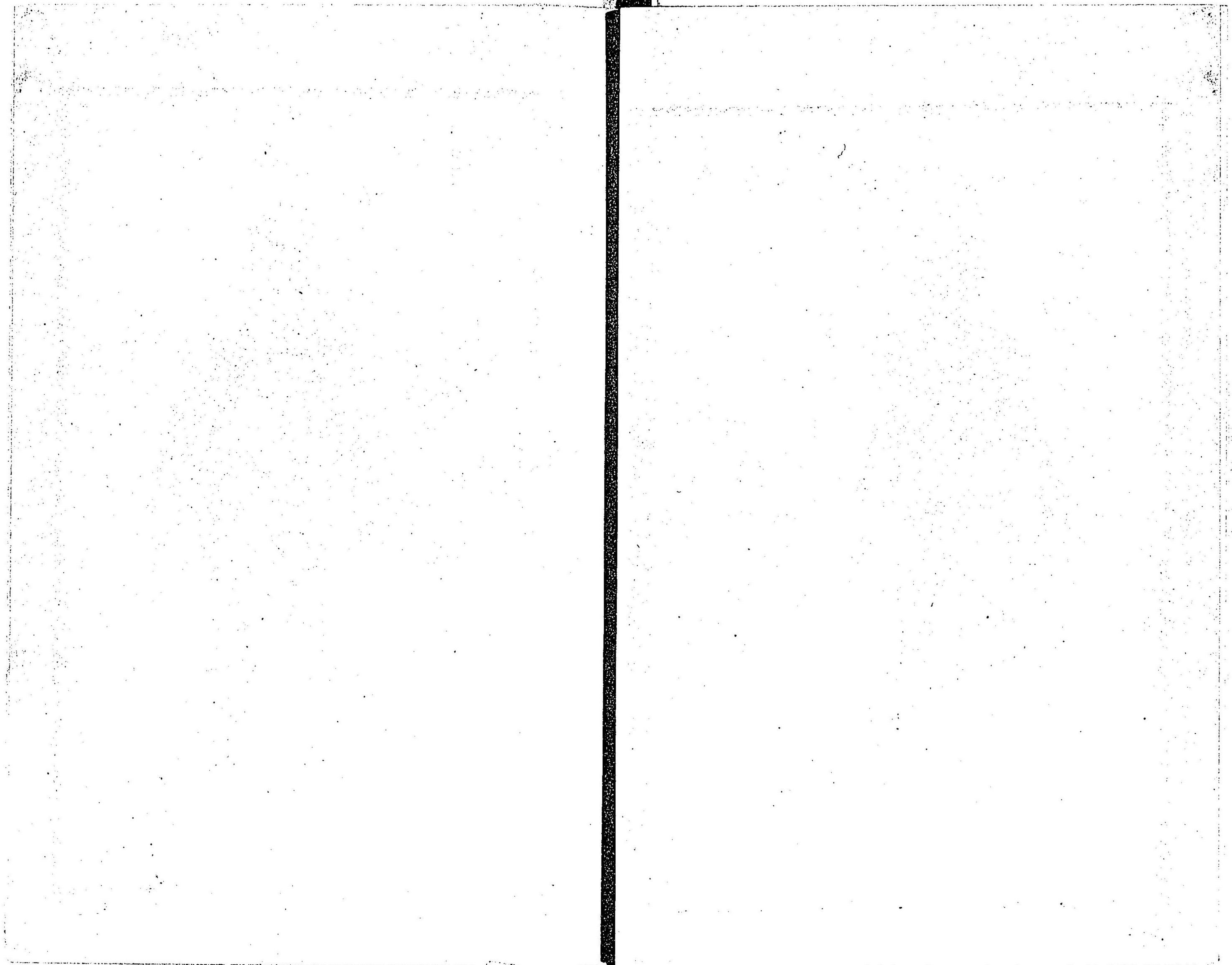


山形山形山形

第三脚後面諸筋



山形山形山形



救急法

關節傷

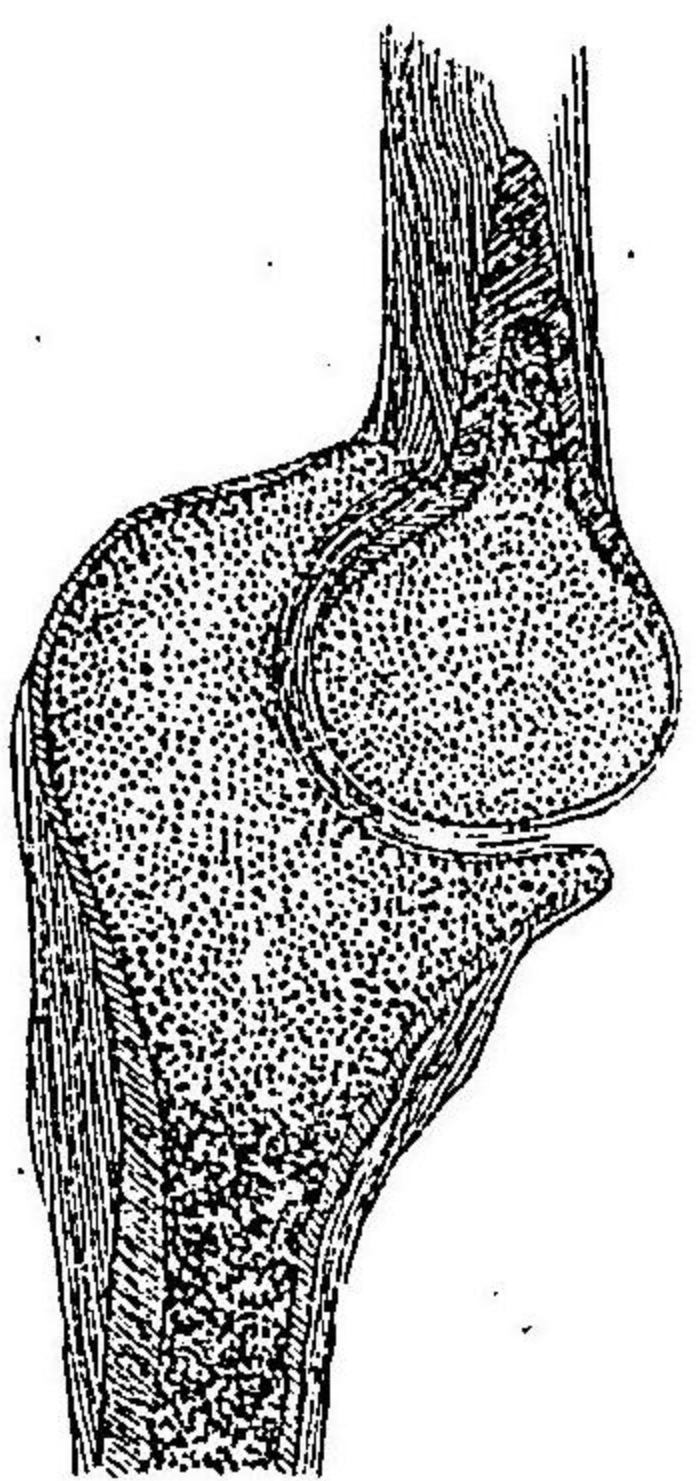
山形縣警部 萩原貞 編纂
 巡查教習所教官 武田坦 校訂
 醫學士 下山貫雄 閱
 山形縣警部保安課長 後藤新平 閱
 兼警務課長 後藤新平 閱
 內務省衛生局 後藤新平 閱
 技師從六位 後藤新平 閱

(1) 關節轉捩傷 關節轉捩(轉)ブカ若クハ杖等ニテ關節(骨ト骨ト)
ノチヨウツツガイチ云フ)ヲ傷シタル者ニシテ關節ノ運動ニ多少ノ疼
 痛ヲ覺ユレ_レ其運動ハ自在(全ク機能ヲ廢)ナルヲ云フ)シ
 タルキハ寒褌法冷水ヲ清潔ナル木綿ニ浸スカ又ハ雪
 氷冷水ヲ膀胱(豚或ハ牛ノ膀胱ヲ云フ)ニ入レ患部ヲ冷却スルヲ云

フチ施シ傍ラ安靜ニスヘシ(蓋シ運動スレハ其部ニ充
血シ燃衝ヲ起ス原因トナレハナリ)右ノ如クスル片ハ
醫師ヲ要セスシテ濟フコアリ(左圖參看)

(2) 關節脫臼傷 關節脫臼(關節外レテ其機能全ク廢セラ
レ(自在ナ)即チ外レタル四肢(手足ヲ)ニ運動ヲ試ミント
欲スレト軟緩無力(フアラ)トシテ運動スルコト能ハサルヲ
云フ)ノ所置ハ安靜療法ヲ兼テ冷卷法ヲ施スヘシ必ス
運動ヲ試ムヘカラス速ニ醫師ヲ聘スヘシ(左圖參看)

關節ノ圖

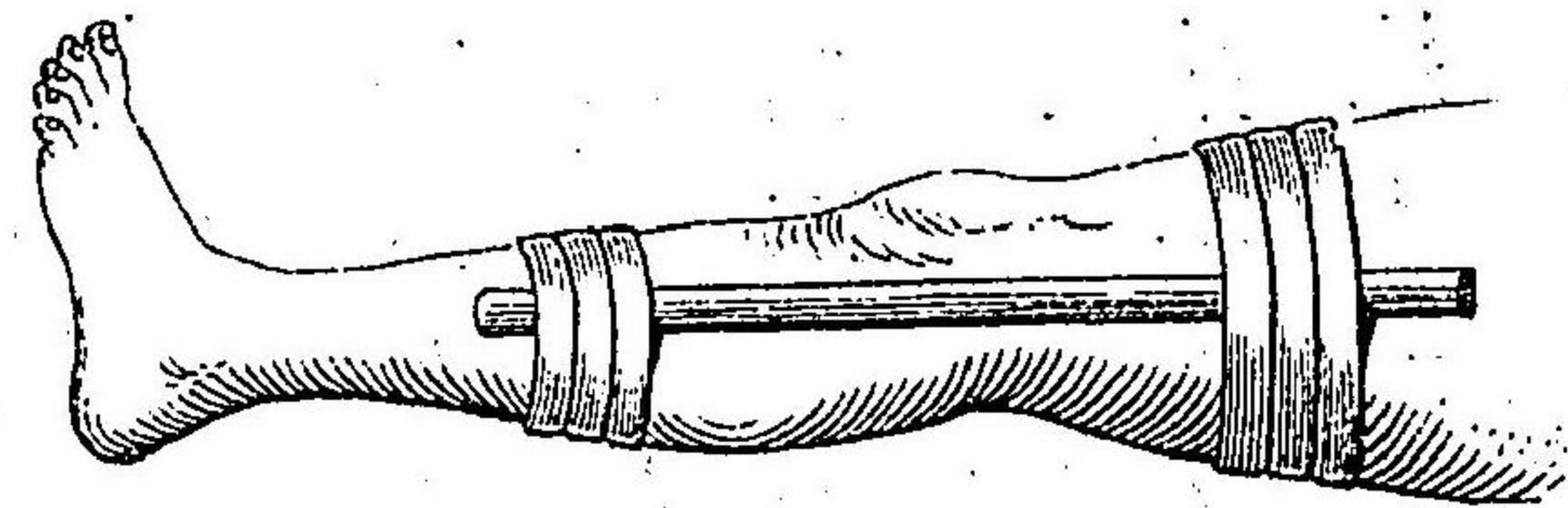


山形山形山形

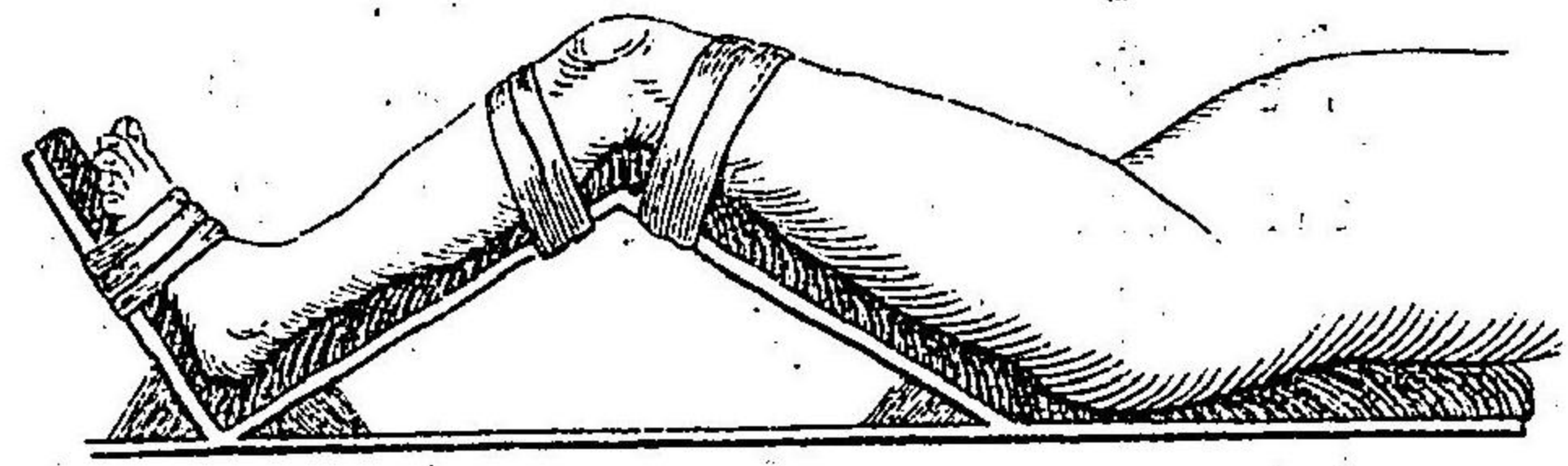
骨傷

(3) 骨傷 骨傷(骨折レテ其機能全ク廢セラレ自在ナラス
シテ關節ト關節トノ間ニ異狀ノ運動ヲナシ必ス其際
疼痛ヲ覺ユルヲ云フ)ハ便宜醫家若クハ病院ニ昇送ス
ヘシ其際折レタル四肢ハ勉メテ動搖スヘカラス因テ
副木(小板、小キ棒、掃帚柄、厚紙ノ類)ヲ以テ折レタル四肢
ニ副ヘ白木綿或ハ紐(紐條ヲ云フ)ニテ宜シク縛ハルヘ
シ原野或ハ森林等ノ不便ノ所ニ於テハ樹枝等ヲ副木
ニ代ヘ藁、木ノ皮等ヲ以テ紐條ニ代用スヘシ若シ又極
メテ窮迫スルノ際ニハ健全ノ四肢ヲ副木ニ代フヘシ
(左圖參看)

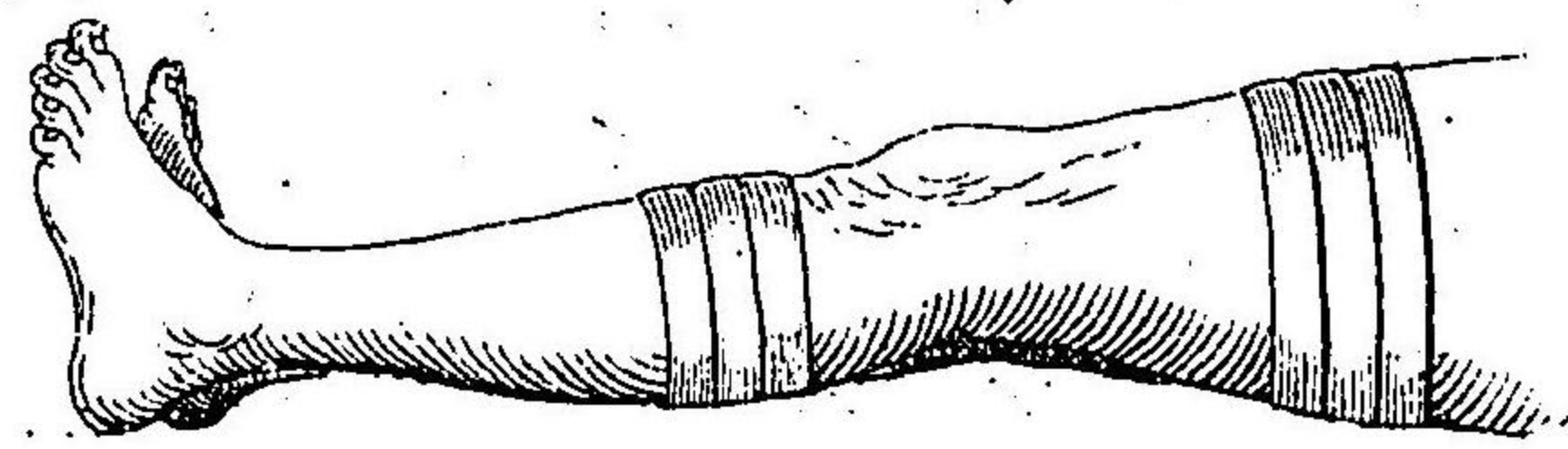
副木ヲ用フ方法



同上



健全ノ四肢ヲ副木ニ代スル方法



(1) 創傷

創傷

創傷(銳器即チ刀、或ハ鈍体即チ棍棒、答杖等ヲ以

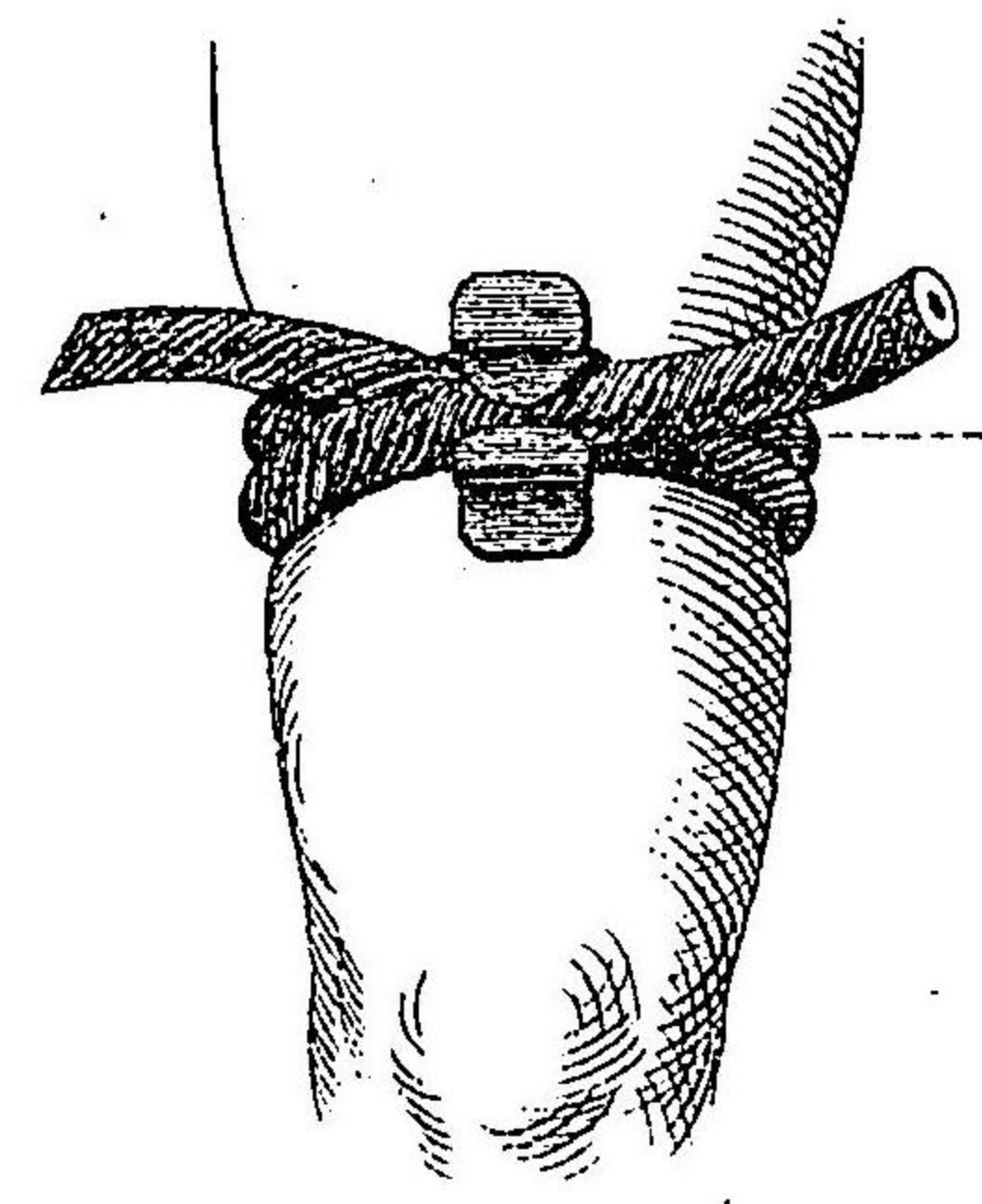
テ皮膚ノ一部ヲ断裂スルヲ云フ)其銳器ヲ以テ成セシ
 モノヲ切創ト云ヒ鈍体ヲ以テ成シタルモノヲ挫傷ト
 云フ其傷ノ生シタル部ヲ傷面ト云ヒ凡ソ創傷ナルモ
 ノハ其治癒スルニ二種アリ第一期癒合(單ニ第一癒合)
 第二期癒合(單ニ第二癒合)ナリ甲ハ創傷ニ膿ヲ醸ス
 ナク數時ヲ經テ癒合スルヲ云ヒ乙ハ一種ノ肉芽(皮膚
 或ハ肉ノ新生スルヲ云フ)ヲ生シ後チ癒合スルヲ云フ
 故ニ此種ノ癒合ニ於テハ傷面ニ膿ヲ生スルナリ因
 テ數日ヲ經サレハ癒合スルナシ此區別ハ醫治ニ最
 モ注意セサルヘカラス創傷療法ハ近世外科術ノ進歩
 卜共ニ余程複雑ナルモノナリ然レモ茲ニ急チ救フノ

六
際ニハ又單簡ナラサルヘカラス今創傷ヲ身体ノ一部ニ生スルヤ其部ニ空氣中ヨリ一種ノ有害物患部ニ侵入シ其部ニ焔衝ヲ起シ種々徵候ヲ發シ(腫起疼痛赤色灼熱)遂ニ化膿スルモノナリ故ニ創傷ヲ醫スルニハ此有害物ヲ豫メ防クカ若クハ既ニ侵入シタル部即チ焔衝ヲ起シタル患部ノ有害物ヲ撲滅セサルヘカラス此法ヲ名ケテ消焔衝法ト云フ此法タルヤ有害物ヲ討殺スル藥ハ即チ防腐藥ナルモノナリ此種ノ藥品ハ百倍ノ石炭酸水、五千倍ノ昇汞水、百倍ノ水楊酸(サルチル酸)等ハ最モ稱用スルモノナリ假令ハ今爰ニ一ノ創傷アリトスレバ先ツ其部及周圍ヲ彼ノ防腐藥液ヲ以テ洗

滌シ毫モ不潔物ノ附着セサル様ニ手當ヲ爲シ而シテ新キ木綿或ハ其類品(綿撤糸、脫脂綿)ノ如キ新鮮ナルモノニ液類ノ濕潤シ易キモノニ彼ノ防腐藥液ヲ濕シ是ヲ緩ク縛リ四肢ナレハ三層乃至四層ヲ纏絡スヘシ頭顔ナレハ傷面ヲ被包シ其上ヲ新キ紙或ハ新キ木綿ヲ以テ被ヒ其上ヲ布片或ハ手拭等ノ如キモノヲ以テ纏絡スヘシ右ノ如クスレハ化膿スルト稀ナリ假令化膿スルモ毎日右ノ如ク反復スレハ數日間ニ全癒スルモノナリ右ハ唯淺キ創傷ノ療法ヲ記スルモノナリ創傷淺部ニ止マラスシテ深部ヲ侵ス時ハ其部ニ分布セル尿管ヲ傷害シ必ス多少ノ出血ヲ起ス即チ細少ナ

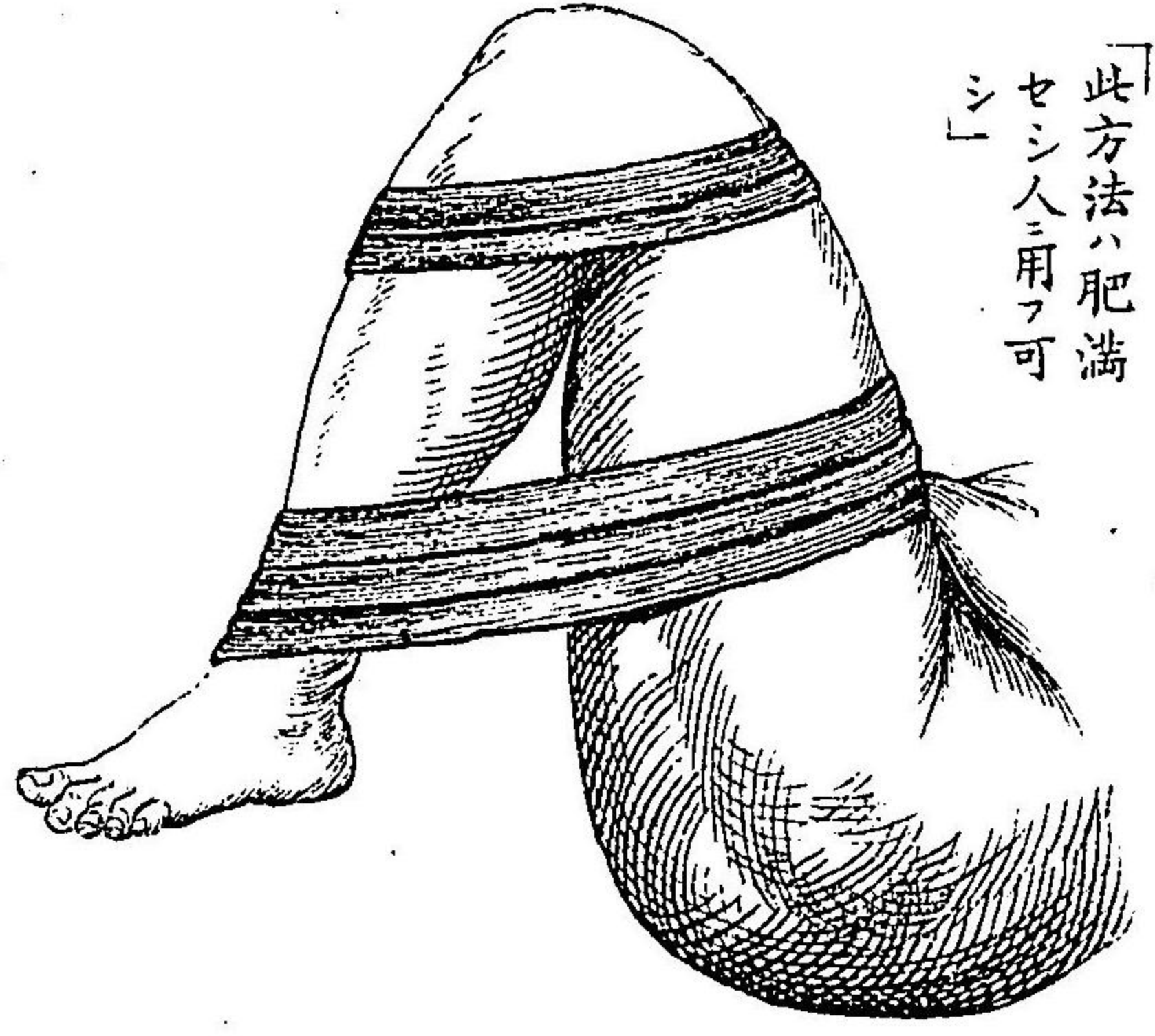
ル脈管ノ外傷ハ漸次自然ニ止血スト雖可及的失血ヲ恐ル、カ故ニ先ツ患部即チ出血部ヲ清潔ナル木綿海綿綿撤糸等ヲ以テ直接ニ其部ヲ壓迫スヘシ又右等ニ冷水ヲ浸シ壓迫スルモ可ナリ(右等ノ品欠乏スル片ハ單ニ拇指ヲ以テ壓迫スヘシ)大ナル脈管ノ外傷ハ血液脈管ヨリ逆射シ容易ニ止血セス甚タシキニ至リテハ爲メニ致命スル丁アリ故ニ創口ヨリ血液逆射スル片ハ大ナル脈管ヨリ出血スルモノト認メ速ニ止血セサルヘカラス其方法タルヤ素人ノ手ニテ行ハル、モフニアラス必ス外科醫ノ手ニ依ラサルヘカラス即チ四肢ニ在リテハ其上部(手又ハ足ノ附根)ニ最モ心臟

四肢止血ノ方法



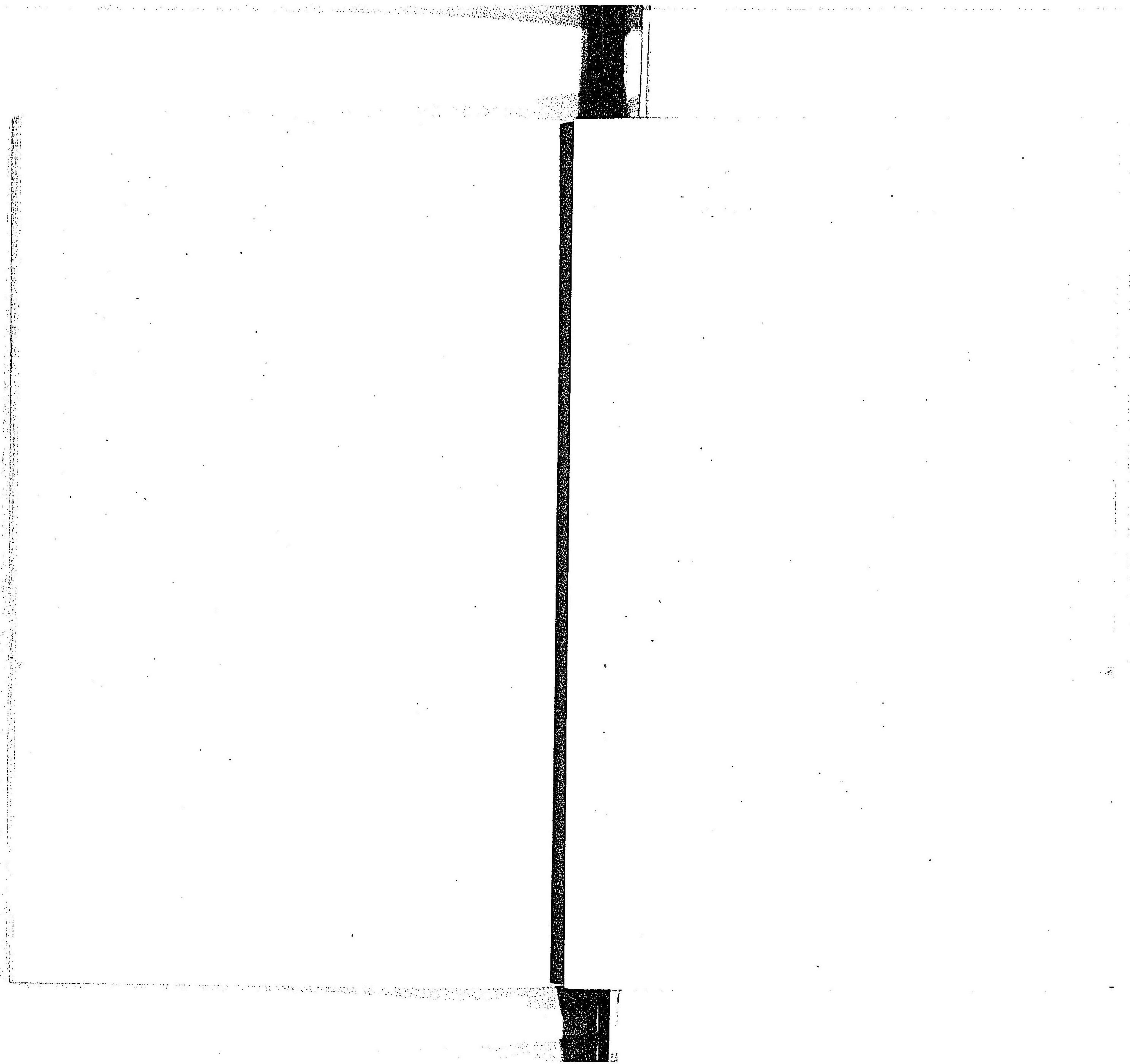
護護或ハ木綿又ハ紐條

下肢止血ノ方法



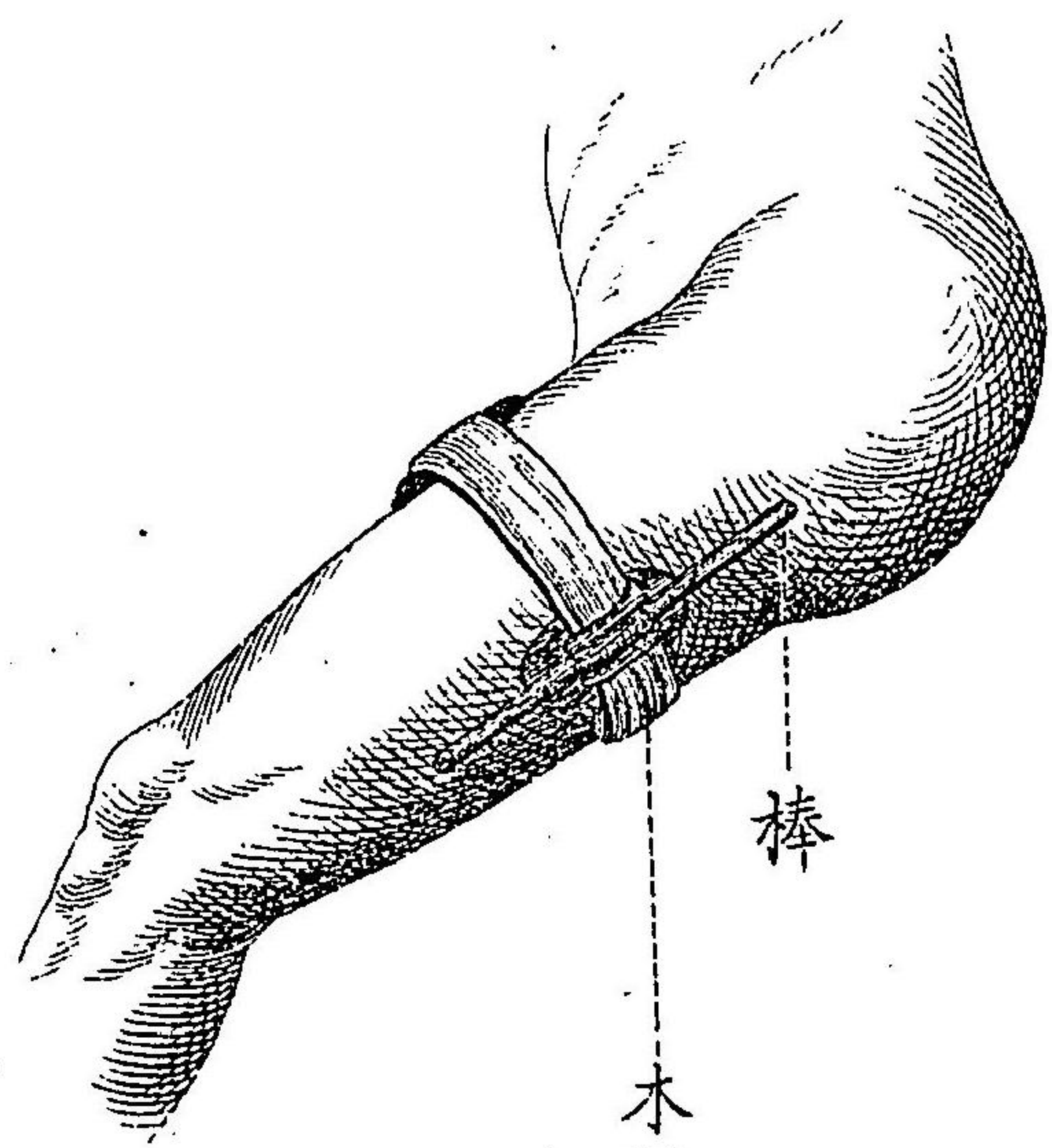
此方法ハ肥満セシ人ニ用テ可シ

ニ近キ部分ヲ固ク縛ルヘシ)然リ而シテ是ニ用ユル材料ハ先ツ手拭、布片、帶、樹脂製ノ紐ニシテ是等ヲ以テ最モ上部ヲ適度ニ縛ルヘシ(左圖參看)



若シ其縛方強フシテ手或ハ足紫黒色ヲ帶フルキハ速ニ緩ムヘシ然ラサレハ危險症ヲ發スルモノナリ又一方ニハ手足ノ附根ヲ先ツ手拭或ハ布巾ニテ緩ク結ビ其中ニ棍棒ヲ插入シ挾轉スヘシ(左圖參看)

四肢止血ノ圖



棒

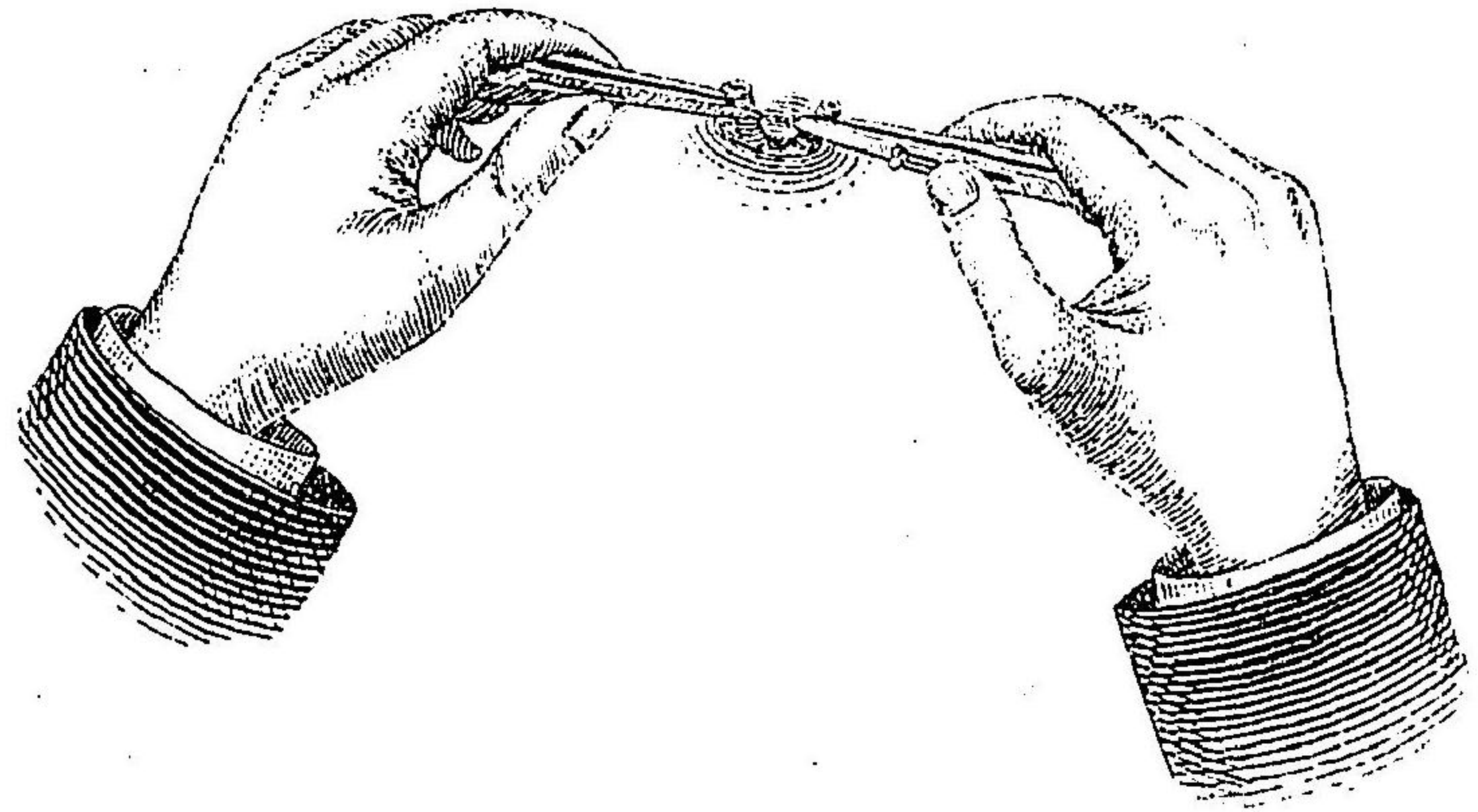
木綿或ハ手拭又ハ紐條

胸部、腹部、頭部ノ出血ニ於テハ直接ニ拇指或ハ手掌ヲ以テ壓迫スヘシ若シ止マラサルキハ綿撒糸、布片、細帶ノ如キモノヲ以テ強ク纏絡スヘシ或ハ毛拔(醫科用鑷子ノ代用)ヲ以テ出血スル脈管ヲ挾ミ出シテ清潔ナル麻糸ヲ以テ脈管ノ端ヲ結ブベシ(左圖參看)併シ其方法タルヤ良外科醫ナラテ行ヒ難キモノニシテ素人ノ手ニハ容易ニ爲シ能ハサルナリ故ニ前述ノ壓迫法ヲ行フヘシ

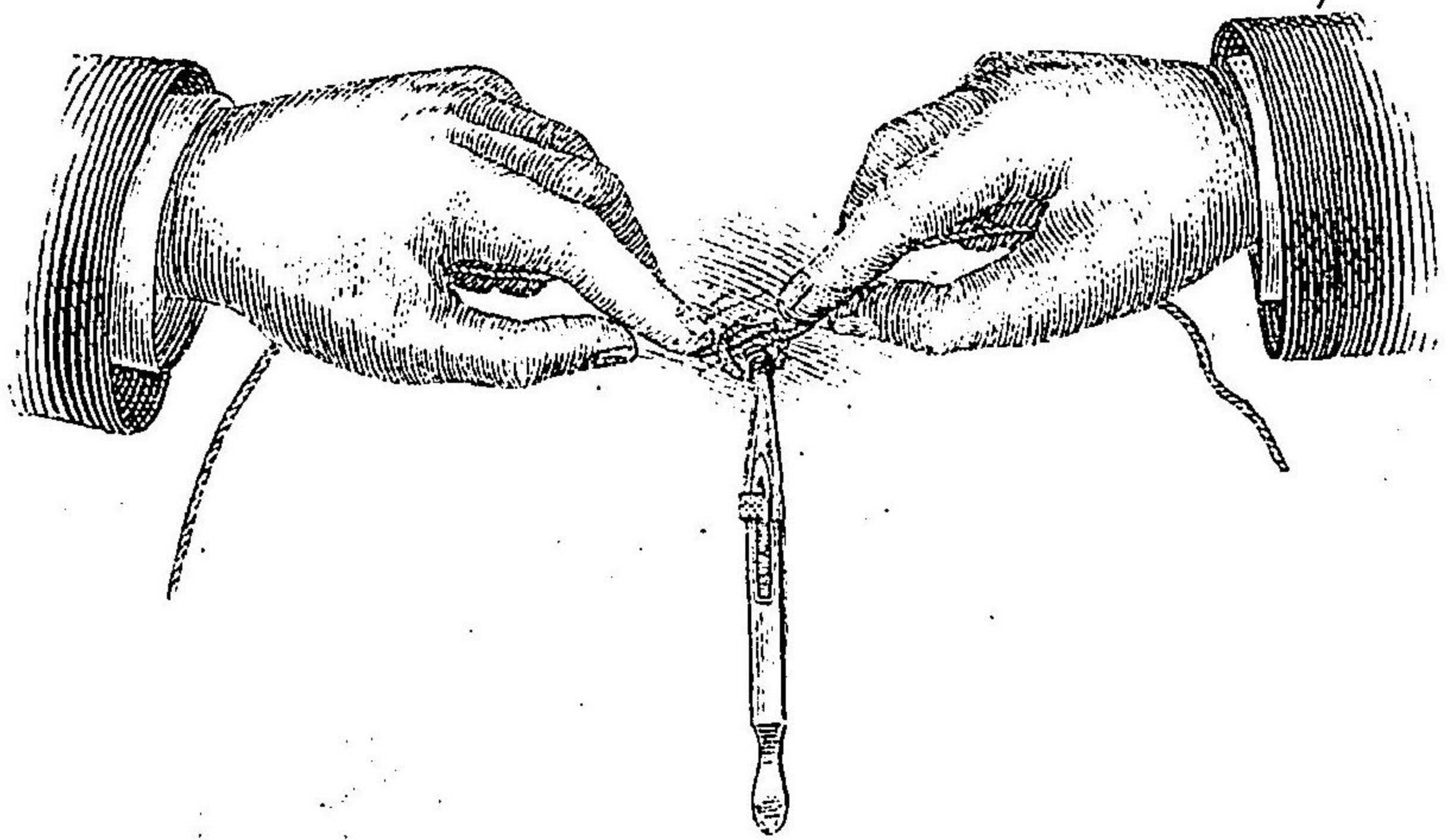
火傷

(1) 火傷 火傷(ヤケド)トハ炭火若クハ沸湯ニテ身体一部ヲ傷スルヲ云フ是レニハ種々ノ度アリテ第一度第二度第三度はレナリ甲ハ火傷ノ部皮膚紅色トナルモノナリ最モ微火傷ニシテ(即チ日光ノ爲メカ或ハ炭火若クハ沸湯ニ隣時觸レテ生スルモノナリ)乙ハ皮膚ニ水泡(火脹)ヲ生スルモノナリ丙ハ皮膚ノ一部炭化スルヲ云ヒ即チ炭ノ如ク變化シタルモノナリ(此度ニ於テハ皮膚ノ一部ニ結痂ヲ生シ或ハ一部一肢ヲ焼滅スルニ至ルノ差アリ)凡テ火傷シタル部ハ速ニ治療ヲ施サ、ルヘカラス火傷ヨリシテ炊衝ヲ起シ上皮ヲ失ヒ遂ニ

醫科ノ用子鑷ヲ以テ出血スル血管ヲ挟ミ出ス



其ヲ挟ミ出シタル血管ヲ糸ヲ以テテ結ブ

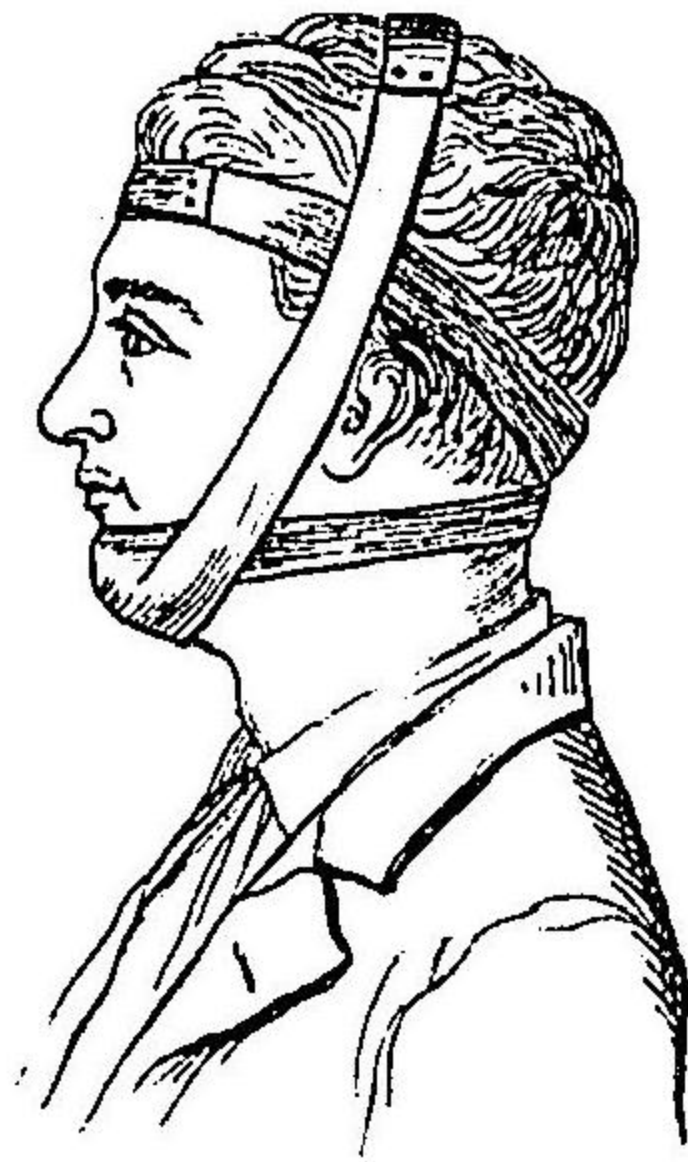


癥痕ヲ生シ全身ニ形跡ヲ殘シ或ハ機管ノ機能ヲ失ス
 ルトアリ或ハ火傷部大ナレハ其度ノ如何ヲ問ハス死
 ナ致ストアリ先ツ火傷患部ヲ救急スルニハ火傷部ニ
 植物油類(燈油、ゴマ油、椿油等)但石炭油ヲ用ユヘカラス
 動物脂油類(魚油、豚脂、牛脂等)ヲ塗布スルヲ第一トス若
 シ昇汞或ハ石炭酸、サルチル酸等ヲ持合スレハ此脂油
 ニ混シ用ユヘシ或ハ石灰乳(石灰ヲ水ニ混シタルモノ)
 二百倍以上ノ硝酸銀溶液、ユロヂユーム等ヲ塗布スヘ
 シ其塗布シタル部分ノ上ニハ綿ヲ以テ被包シ或ハ清
 潔ナル白木綿ヲ以テ纏絡シ可及的空氣ノ竄入ヲ防ク
 ヘシ若シ空氣浸入スレハ彼ノ有害物ヲ誘導シ必ス燃

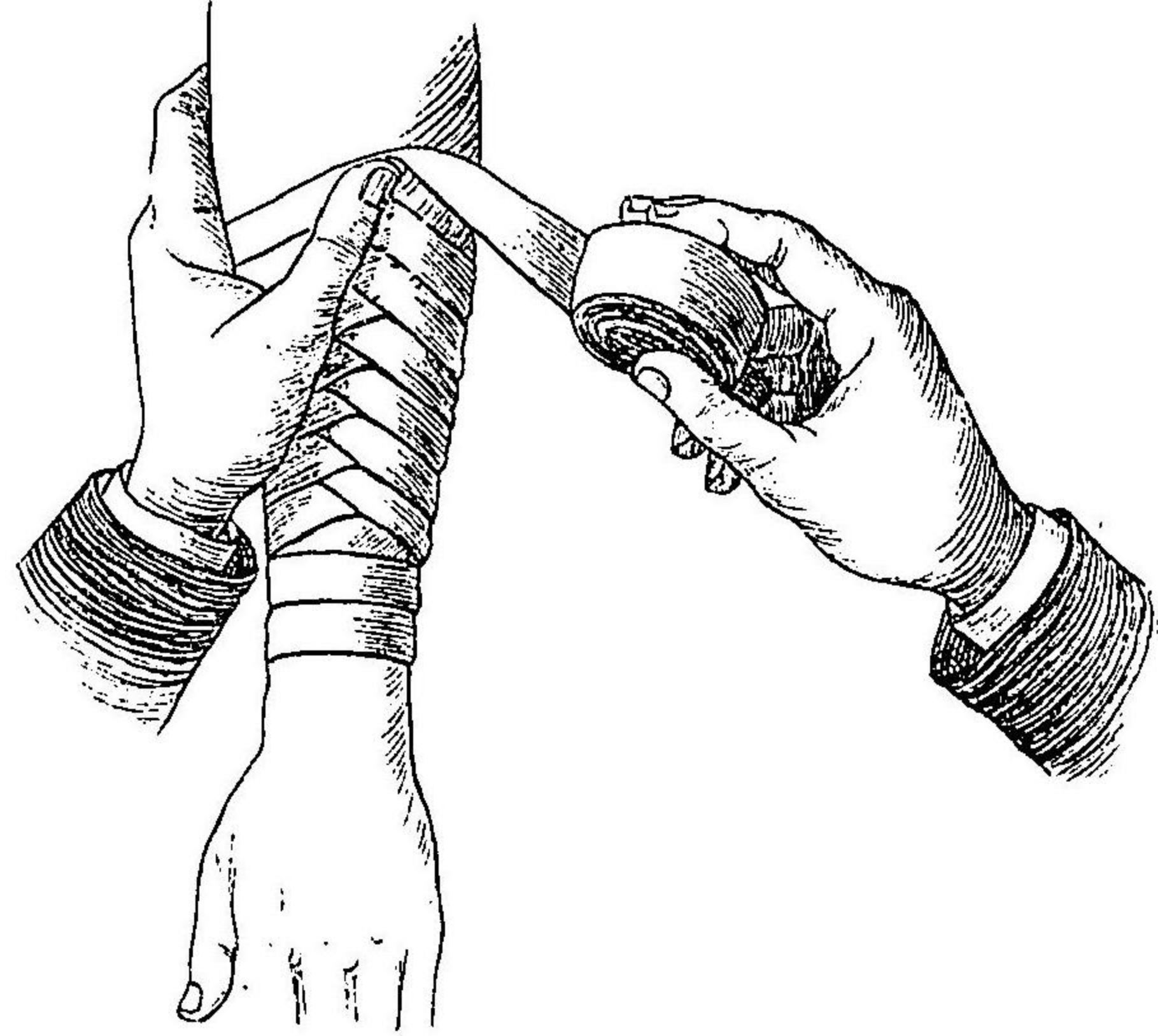
衝ヲ生シ癒合遅キモノナリ若シ火傷部化膿スレハ百
 倍硝酸軟膏(軟膏トハ黃蠟或ハ白蠟ニ油ヲ混シ製シタ
 ルモノ)二百倍ザルチル酸軟膏又ハ百倍ノ石炭酸オレ
 フ油ヲ塗布スヘシ
 以上繃帶纏絡ノ方法ハ左圖ヲ參看スヘシ

Handwritten text in a vertical column, possibly bleed-through from the reverse side of the page. The text is illegible due to the quality of the scan and the orientation of the page.

法方ノ帶繙部頭

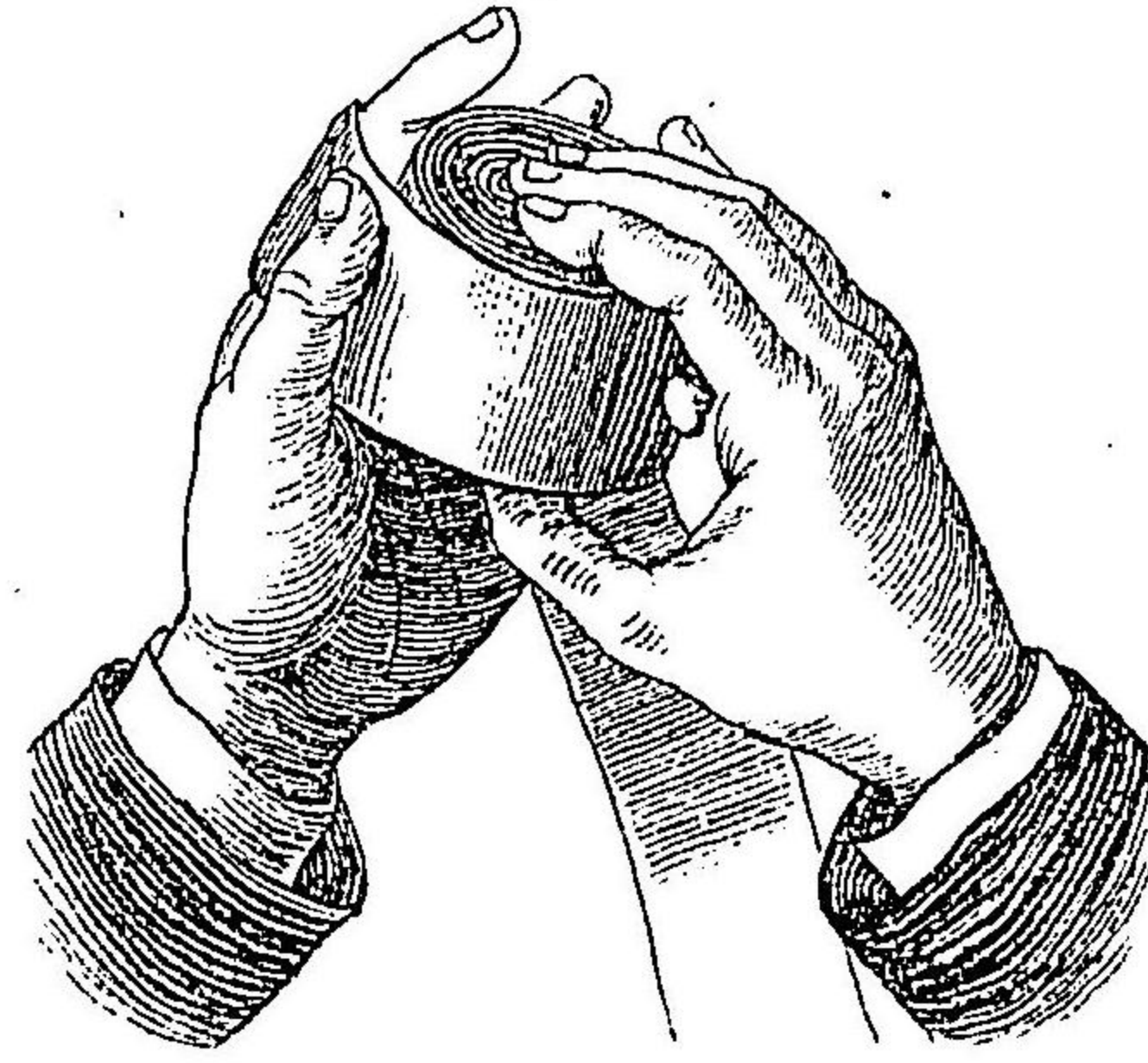


法方ノ帶繙二部膊上

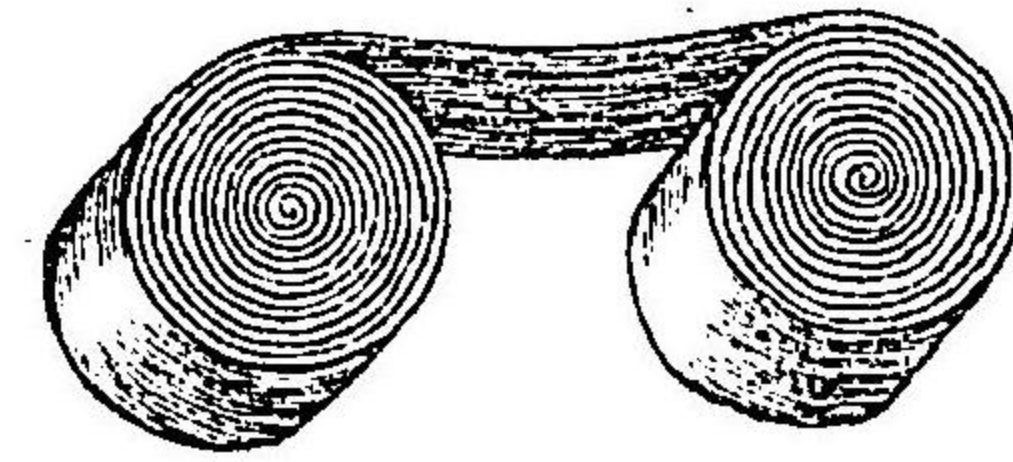
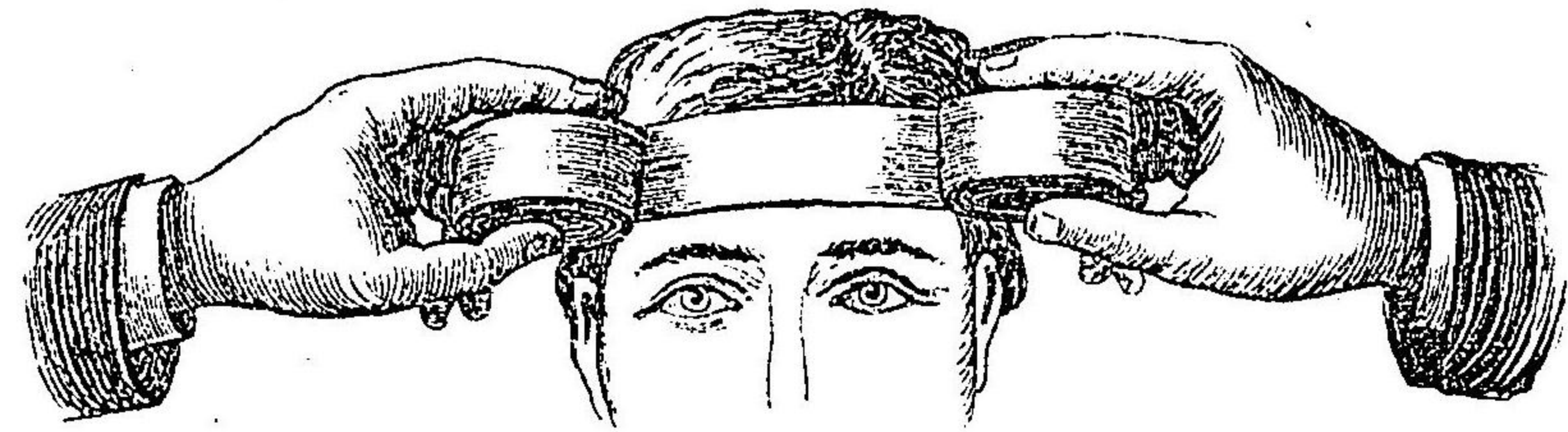


山形山印

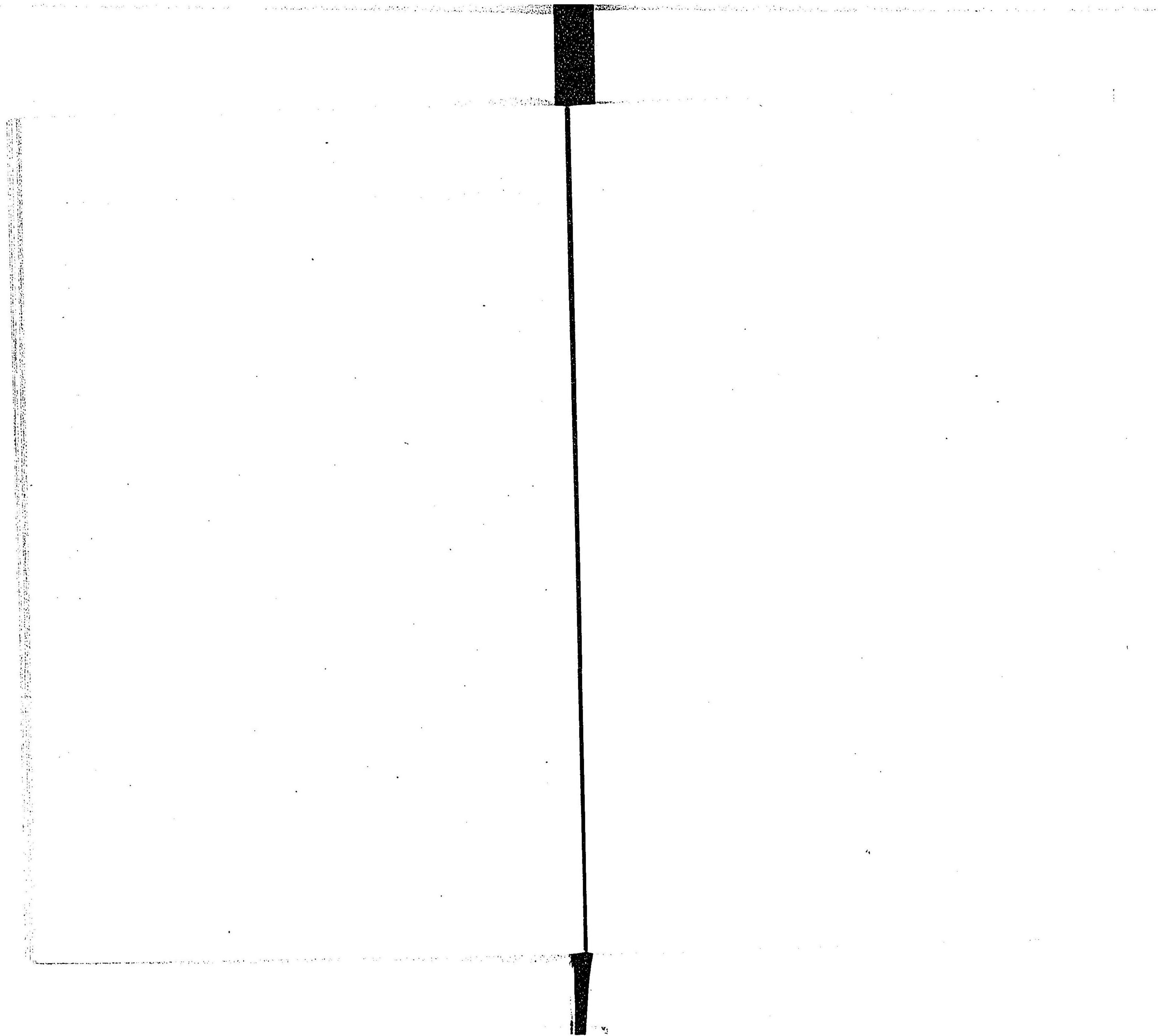
法ノ方キ卷帶繙



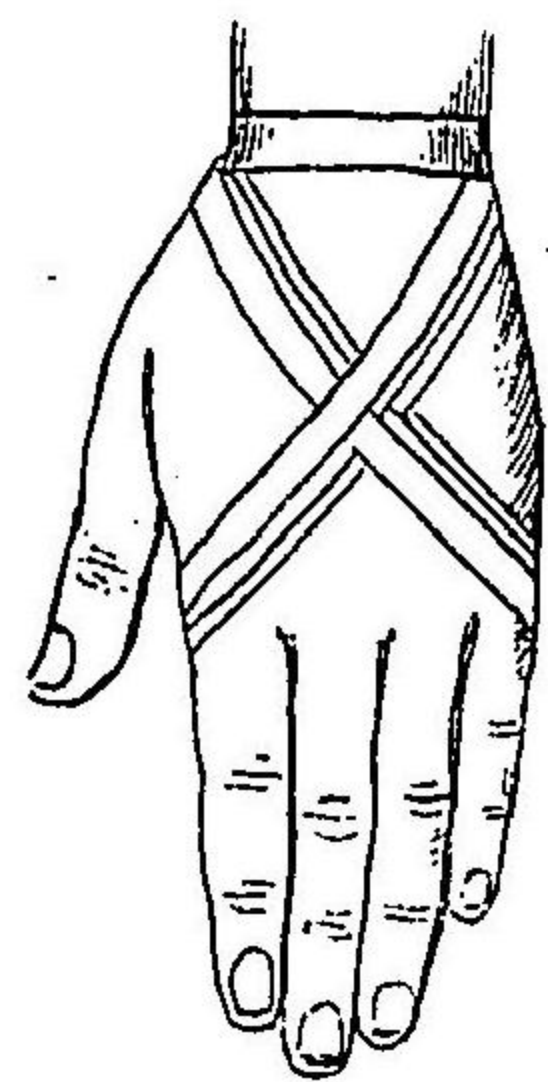
法方ノ帶繙部頭



山形山印



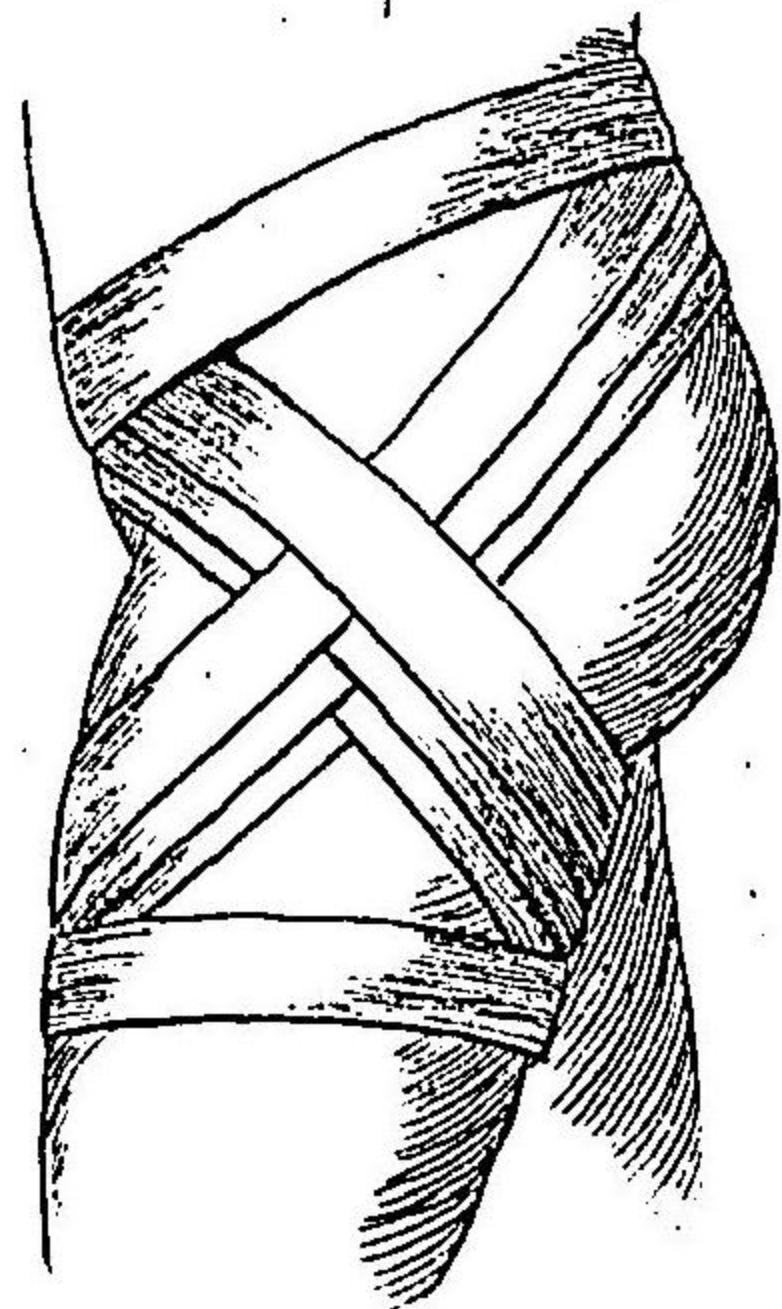
手掌部ニ繃帶ノ方法



足部ニ繃帶ノ方法



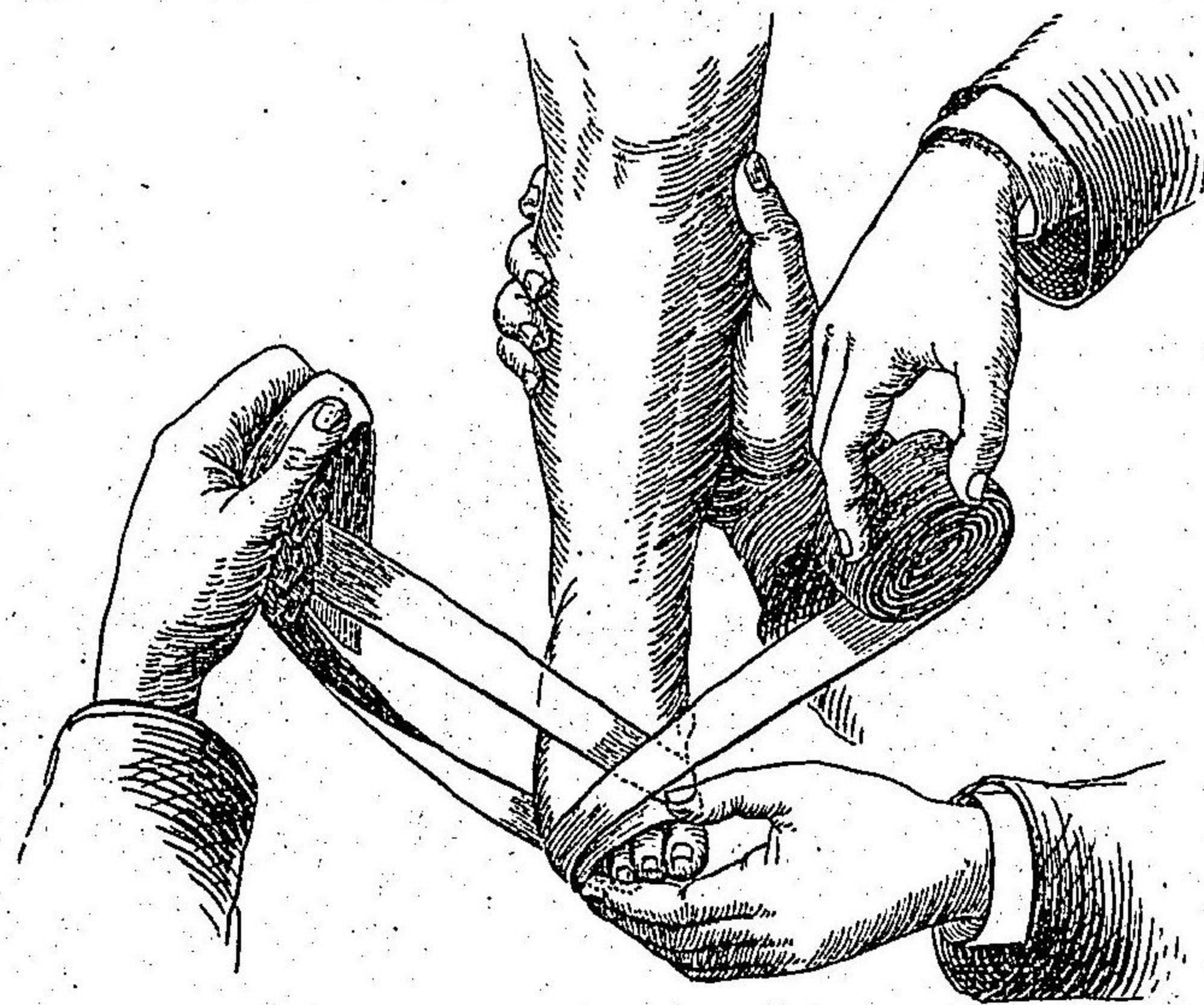
肢關節部ニ繃帶ノ方法



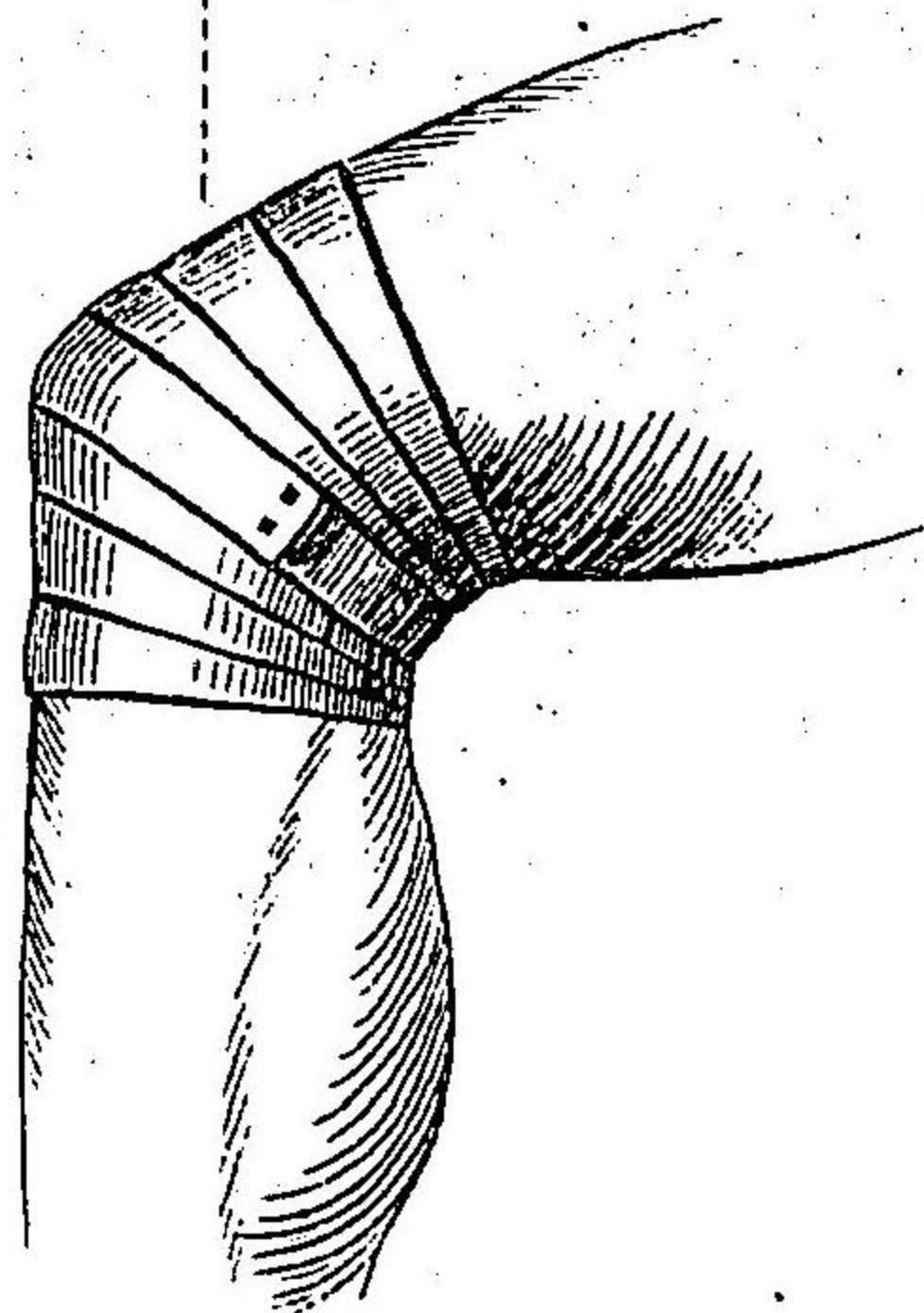
下腿部繃帶ノ方法



足部ニ繃帶ノ方法



膝蓋關節部ニ繃帶ノ方法



中毒

(1) 毒虫ノ中毒 毒虫ノ爲メニ傷セラレタル片ハ其創口ヨリ毒虫固有ノ毒氣ヲ吸收シ水脈管統系ヲ經テ全身ニ循環シ甚シキ中毒症ヲ發スルモノナリ先ツ毒虫ニ傷ケラル、片ハ其部ニ劇痛ヲ發スルモノナリ故ニ直ニ其部ニ口ヲ接シテ吸引スルカ或ハ冷水ヲ以テ洗滌スヘシ若シ傷口ヨリ出血スルヲアレハ必ス止血ヲ試ミス出血ノ儘ニスヘシ又其部ニ刀ヲ以テ傷ケ出血ヲ促ナ宜シトス又十倍ノ硝酸銀溶液或ハアンモニア水ヲ其部ニ塗布スヘシ

(2) 木茸ノ中毒ニハ直ニ大量ノ飲液ヲ與ヘ羽毛ヲ以テ咽

喉ヲ擦クリ或ハ指ヲ深ク口内ニ入レ頻々嘔吐ヲ促ス
ヘシ

(3) 鳥獸魚介ノ中毒ニハ亦嘔吐ヲ促シ適宜ニ水ヲ飲マシ
メ而シテ後食鹽ヲ與フヘシ

(4) 毒藥劇藥ノ中毒ト認ムル時ハ徒ニ消毒ノ方法ヲ用ユ
ルコトナク直ニ醫師ヲ聘スヘシ

失神

失神(俗ニ氣カ遠クナルカ又ハ氣ヲ失フカ或ハ一時ノ氣
絶セシテ謂フ)凡ソ生活中ニハ意識アリテ諸官ノ機能ヲ
完フスルモノニシテ今若シ意識鈍麻スルカ或ハ全ク之レ
ヲ失フキハ從テ諸官ノ機能ハ勿論知覺運動ハ皆ナ微弱

トナルカ又ハ消失スルモノナリ即チ此失神ノ重ナル症
狀ハ顔面蒼白色、四肢厥冷、瞳孔散大、呼吸微弱、脈細數等其
原因ノ大略ヲ舉クレハ劇シキ驚怖(即チ劇シキ精神感動
假令ハ父母又ハ愛子ノ訃音ニ接スルカ或ハ負傷等)腦振
盪(高所ヨリ落ルカ又ハ落馬等)ノ如シ若クハ過テ頭ヲ劇
シク打撲スルカ或ハ兇器ヲ以テ劇シク打タルカ如キ
等)大失血(負傷ノ爲メ又ハ出産ノ直後等)異狀瓦斯ノ吸入
(通常呼吸スルモノハ即チ空氣ニシテ或ル場合ニハ此空氣
ニ酸化炭素、炭酸、アンモニア、照光瓦斯等ノ異狀瓦斯ヲ混
スルコトアリ)其他腦病及子宮病等ニテ失神スルコトアレハ
是等ハ皆ナ醫師ヲ要スル所ニシテ素人ノ手ニ蘇生セシ

ムル丁能ハザルモノナリ失神シタルモノヲ救ハンニハ先ツ凡テ窓戸ヲ開放シ新鮮空氣ノ流通ヲ良クシ緊褌衣服ヲ除却シ殊ニ胸部ヲ披開シ左乳房直下ヲ平手ニテ兩三度打ツヘシ或ハ冷水ヲ顔面ニ灌キ又ハ冷水ヲ手拭ニ浸シ胸部ノ左側ヲ摩擦シ或ハ鼻孔ニ紙ノ「ヨリコ」又ハ羽毛ヲ插入ス可シ右ノ法ニテ快復セサルキハ葡萄酒此酒ヲ欠ク場合ニハ燒酎又ハ諸酒ノ類ヲ與フルカ又ハ礮砂精(藥名)ヲ吸入セシム可シ以上ノ方法ヲ施シテ蘇生セサレハ假死ト見做シ其療法ヲ爲ス可シ

假死

假死トハ意識ハ消失スレモ諸官ノ機能未タ全ク停止セ

スノ只僅カニ存スルノミ故ニ適當ノ療法ニテ蘇生スルヲアリ真死ニ於テハ諸官能全ク廢サレ如何ナル療法ト雖モ扶クル丁能ハサルモノナリ故ニ假死ト真死ノ鑑別ハ必要ナルヲ以テ尚ホ左ニ詳説ス可シ

真死ト假死ノ鑑別法

- (1) 心臟ノ官能存否ヲ檢査スルハ最モ緊要ナリ即チ聽診ヲ施スト數回ニシテ五分時乃至十分時内ニ聽取スル克ハサルキハ真死ナリ又心動ノ有無ヲ知ラシメカ爲メ心尖部ニ細小ノ穿針「半ツオル」許刺入シ針端ヲ熟視スルニ其動揺スル者ハ心動ノ僅カニ存スルヲ知ルヘシ
- (2) 血液循環ノ存否ヲ檢スルニハ紐帶ヲ以テ四肢ヲ縛ス

ルニ周邊ノ靜動脈怒脹シ或ハ纖維ヲ以テ手指ヲ緊縛スルニ未タ生活機ヲ失ハサル中ハ青紅色ヲ呈シ且ツ腫脹ス可シ此系ヲ除クキハ其部ニ白色ノ凹溝ヲ殘留ス若シ假死ナルキハ其部暫時ニ赤色トナル又点火シタル封蠟ヲ胸上ニ滴下シ其部潮紅スル者ハ血行ノ未タ廢絶セサル徵ナリ

(3) 呼吸機ノ存在スルヤ否ヲ知ルニハ鼻口部ニ冷鏡、羽毛、燭火ヲ接ス可シ若シ鏡面ニ曇翳ヲ生シ羽毛、燭火ニ顫動ヲ來タスキハ未タ其機能ノ存在ヲ徵知ス可シ

(4) 反射機能ヲ檢セント欲セハ眼中ニ光線ヲ射入ス可シ則チ眞死ニアラサルキハ瞳孔收縮シ之ヲ去ルキハ又

々散大スルヲ以テ假死タルヲ知ル可シ最モ確實ナルハ電氣ヲ通シテ筋ノ刺戟ニ由テ檢スルニ在リ(死后三時間ハ其反應ヲ存ス)又皮膚ヲ刺戟スルニ假死ナルキハ反應性ノ赤色ヲ呈スルモ眞死ニ於テハ然ラス眞死ノ徵候ハ面色蒼白ニシテ(窒死ハ紫色、黃疸ハ黄色)体中壓迫ヲ被フル部ハ悉ク扁平トナル死后八時乃至十二時ヲ經レハ死斑ヲ生ス即チ血液ノ沈下ニ由リ生スルヲ以テ必ス體ノ下部ニ多ク見ル者ナリ六時乃至十二時ヲ經レハ冰冷トナリ四時ヨリ十二時ニ至ル間ニ死後強直ヲ發ス腐敗ハ死后數時或ハ數日ニシテ發ス其遲速ハ外圍ノ氣温ニ關スルモノナリ

假死ノ主ナル症狀ハ顔面及口唇ハ暗紅色トナリ口内ヨリ泡沫ヲ噴出シ又時トシテハ眼球、瞳孔、口内ヨリ出血スルコアリ(以上ノ徵候ハ主トシテ窒息即チ絞死、縊死、中毒等ニ於テ見ル所ノモノナリ)是レニ反シ顔面蒼白色、四肢厥冷等(大出血、驚怖等)微細ノ呼吸、及心臟運動、瞳孔ハ大概散大シ其反應僅カニ在スルノミ

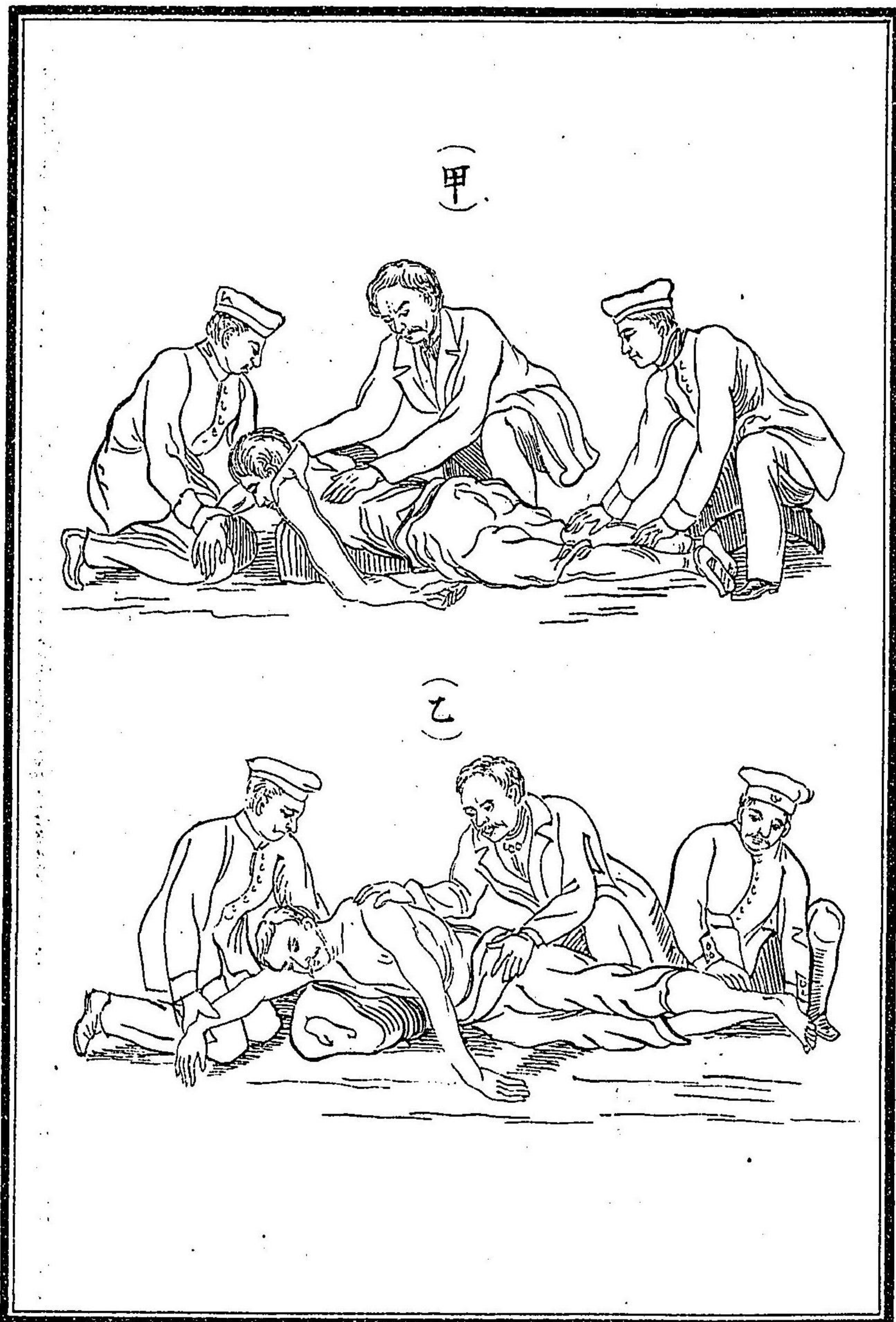
假死ノ原因ハ失神ト殆ント同一ナレモ瓦斯中毒、劇藥ノ中毒、縊死、凍死、溺死等其重ナルモノナリ

療法 失神ニ於ケル如ク先ツ諸法ヲ試ム可シ若シ回生セサルモハ所謂人工呼吸ヲ次ノ式ノ如ク爲ヌ可シ

人工呼吸ノ方法

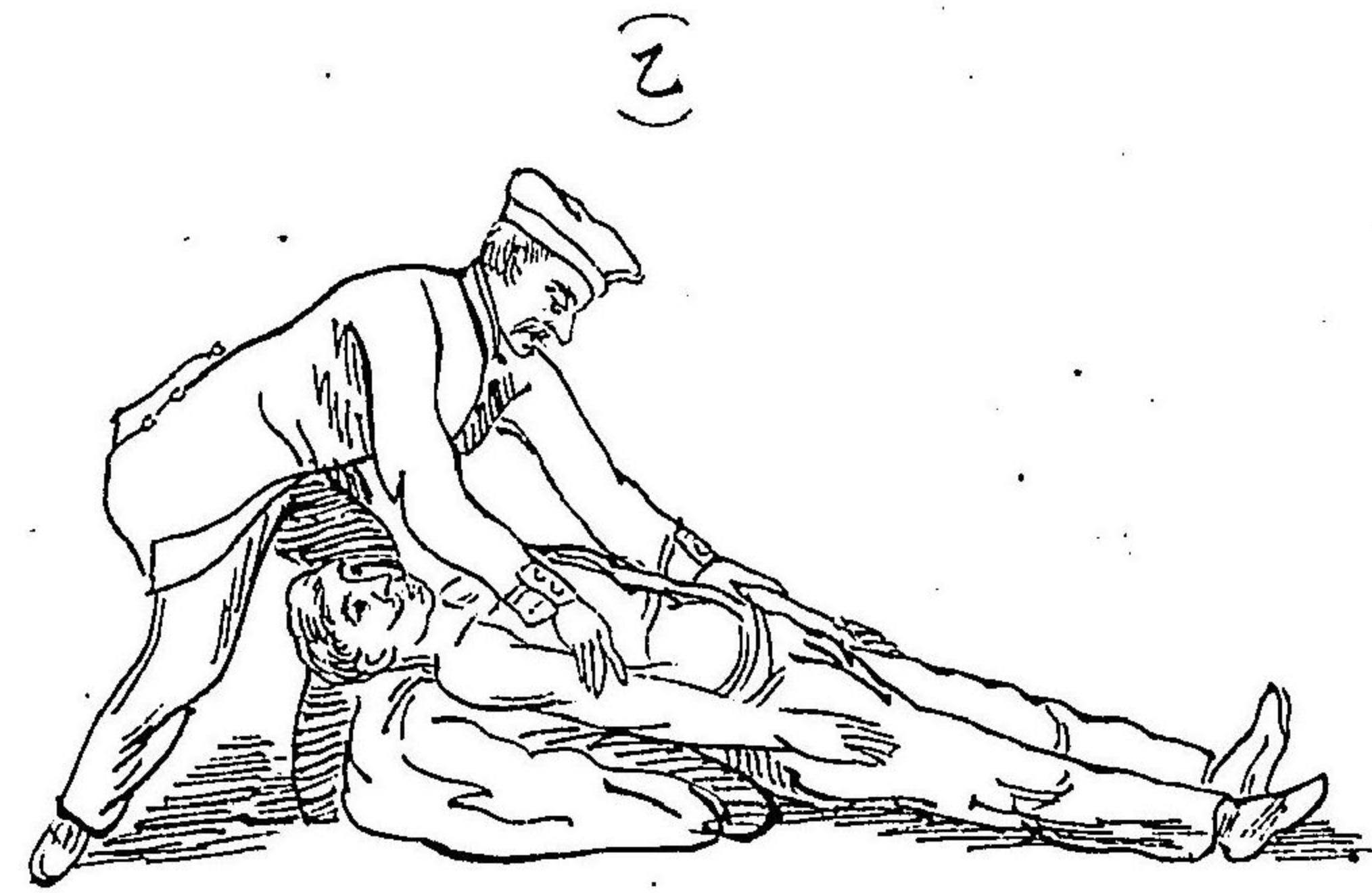
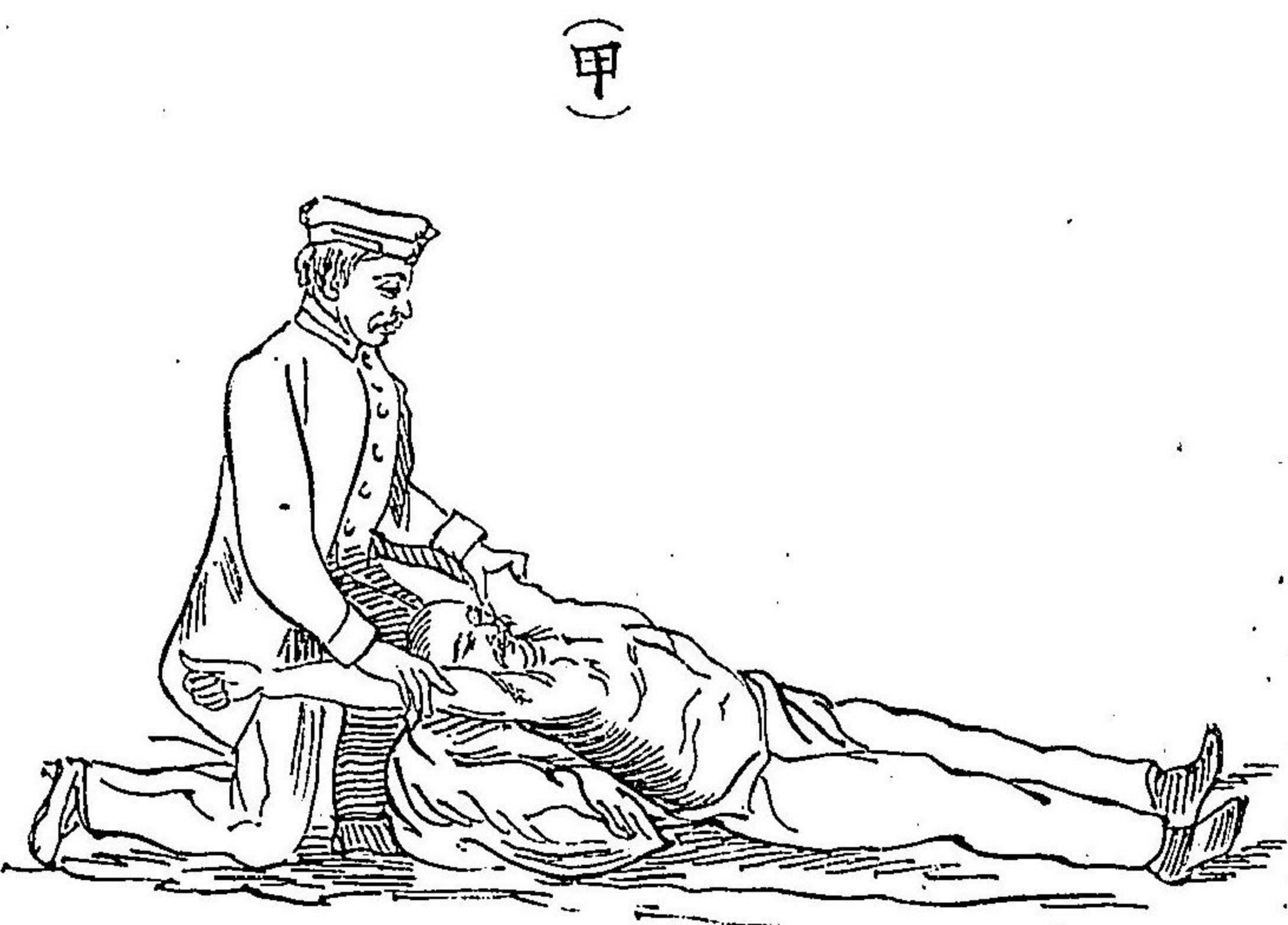
(1) 氣道ヲ刺戟スル法 葱根ヲ切り其切端ヲ鼻中ニ挿入シ或ハ羽毛或ハ藁ヲ以テ鼻孔ヲ刺戟シ或ハ諸母尼亞瓦私、醋酸、依的兒藥名等ヲ嗅入セシメ后チ假死者ノ顔面及胸部ヲ冷水ニ浸シタル布片ヲ以テ輕打シ反射ニ呼吸ヲ喚起シ或ハ皮膚ニ芥子泥、芥子精藥名ヲ塗布シ刺戟スヘシ

(2) 大氣吹入法 假死者ノ鼻孔ヲ閉チ術者ノ口ヲ直チニ假死者ノ口ニ接シ或ハ「カテーテル」ヲ以テ大氣ヲ吹入ヌ可シ又或ル法ニ依レハ假死者ノ衣帶ヲ脫シテ其體ヲ伏臥セシメ衣服ヲ卷キ之ヲ胸廓上部ト地上ノ間ニ挿置シ術者ハ手掌ヲ開放シ左右肩胛骨間ニ當テ平等



山形縣立山形病院

三 壓迫シ(甲圖)二秒時間ニシテ横臥位ヲ取ラシメ(乙圖)
 二秒時後再ヒ伏臥位トナスヲ要ス此法ハ一分時間十
 五回行フヘシ之ヲ横臥トナスニ左右交番ニ轉換シ行
 フヲ良シトス
 尙ホ一法アリ假死者ノ頸部ニ枕ヲ入レ胸部ヲ高起シ
 テ仰臥セシメ介者ヲ舌ヲ牽出サシム而シテ術者ハ
 患者ノ頭邊ニ立チ其兩手ノ肘關節部ヲ取り上肢ヲ強
 掣シ頸上ニ送り(甲圖)二秒時ノ后チ再ヒ腹ニ其手ヲ下
 降シ胸ノ側面ヲ壓迫ス(乙圖)此ノ如ク上下スルヲ一分
 時十五回トス



山形野山印

(3) 溺者ノ人工呼吸法 先ツ溺者ノ衣帶ヲ脱去シテ伏臥
 セシメ其衣服ヲ卷纏シテ胃部ト地上(床上)ノ間ニ挿入
 シテ胃部ヲシテ最高ク口唇ハ最低位ヲ取ラシム
 可シ此際前額ノ地上ニ接着スルヲ防ク可シ亦后術者
 ハ兩手ヲ以テ溺者ノ胸部ヲ壓スルヲ毎三秒時ニ一回
 之ヲ行ヒ反復スルヲ兩三回ニ及フキハ胃及氣管中ニ
 吞飲セル所ノ液ハ吐逆シテ口又ハ鼻ヨリ排出スルニ
 至ル可シ此ニ至リ却テ仰臥セシメ枕ヲ背下ニ挿入シ
 胸ノ下部ヲ高處ニ支エ肩部ヲ低下シ頭部ヲ反張セシ
 メ兩手ハ頭上ニ交叉ス可シ又介者ヲシテ布片ヲ舌ニ
 纏ヒ其退縮ヲ防ク爲メ固持セシメ術者ハ溺者ニ跨リ

其臂部ヲ吾股間ニ挾ミ膝立シ兩手ヲ溺者ノ肋軟骨肉端ノ上ニ接シテ其拇指ヲ胸骨劍尖ノ近部ニ其他ノ四指ヲ肋間ニ當テ胸部ヲ壓迫シ術者ハ其肘ヲ固定シ而シテ毎二三秒時ニ横隔膜ニ對シテ上方及背部ニ向テ急劇ノ力ヲ用ヒス徐々ニ壓迫シ交互ノ顔面殆ント相接セントスルニ至リテ忽チ壓迫ヲ止メテ直チニ膝立ノ位置ニ復ス可シ然ルキハ壓縮セラレタル胸廓肋骨ノ彈力ニ由テ一頓ニ擴張シテ吸氣作用ヲ起ス可シ之ヲ行フト一分時間ニ七回乃至十回ナル可シ此法最モ便益アリトス

(4) 絞死及縊死ハ直ニ其首頸ヲ謂フニ懸ル所ノ索條ヲ除

ク可シ此際假死体ヲシテ地ニ墜落セシメサル様注意シテ保持シ人工呼吸ヲ試ムヘシ

(5) 溺死ハ成ルヘキ的速度ニ水ヲ吐出セシムルヲ第一ノ法トス總テ強キ頭部ノ動揺回轉ヲ避ケ注意シテ鼻竅口腔及咽頭ヨリ汚物砂泥及水ヲ排除スヘシ而シテ若シ屋外ニ於テ寒冷ノ虞アラハ温暖ノ室内ニ移シ動揺ヲ避ケ衣服ハ切開シテ速ニ衣服ヲ脱セシメ然ル後上身ハ稍々高クシ下脚ハ低キ位置ニ安シ假死體ノ濕潤ヲ拭ヒ去リ乾キタル毛布及被服ヲ以テ覆ヒ上文ニ述ヘタルカ如キ回生術即チ人口呼吸法ヲ試ムヘシ其間ニ温浴ノ準備ヲ爲シ温浴ヲ行ヒテ後ハ摩擦ヲ施スヘシ

又指頭或ハ羽毛ヲ以テ咽頭ヲ搔擦シ吐ヲ催サシムル
モ可ナリ

(6) 窒死(殊ニ酸化炭素酸炭ニ由テ發スル者)ハ成ルヘキ的
速ニ有害ノ瓦斯中ヨリ去ラシメ窓牖ヲ開放シテ清淨
ノ空氣ヲ通シタル氣中ニ移轉セシメサルヘカラス炭
氣ノ窒息ハ人工呼吸法ヲ行ヒ全時ニ輸血法即チ「プル
ー」トトランスグーシオン(纖維素(人体ニアル肝要ナル系ノ如キモノヲ云フ))ヲ
奪去シタル新鮮ノ人血ヲ患者ノ靜脈ニ注入スル法ナ
リ)ヲ施セハ偉効アリ(厠圖瓦斯ニ由テ發スル窒息殊ニ
糞便ヲ嚥下シタルトキニハ第一吐劑(鑛屬性品ハ用フ
ヘカラス)ヲ用ヒテ吐ヲ促シ格魯兒水又ハ格魯兒加爾

基水ニ浸シタル布巾ヲ以テ口腔ヲ覆フヘシ凡ソ變死
人ノ衣服及回生術ヲ行ヒタル場所ハ格魯兒薰蒸法ヲ
用ヒテ消毒スヘシ

(7) 電撃ハ速ニ衣服ヲ脱セシメ半坐位ニ於テ温服ニ代ヘ
尋テ回生法殊ニ人工呼吸ヲ施スト猶ホ假死ニ於ケル
カ如シ

(8) 凍死ハ速ニ温暖ニスルコトヲ禁ス宜シク漸次ニ其溶融
ヲ促スヘン又手足體(肢体ヲ謂フ)ヲ毀傷セサル様注意
シテ之ヲ保持セサルヘカラス而シテ風雪ヲ防クヘキ
場所(温暖ナラサル室)ニ昇送シテ其衣服ヲ脱セシメ皮
膚溶融シテ手足四肢ヲ謂フ)回轉スル迄雪或ハ細碎シ

タル氷片(若シテキキハ成ルヘキ的寒水)ヲ以テ鼻竅及口ヲ掩フヘシ皮膚温氣ヲ發スルキハ始メテ氷雪ヲ除却シ寒冷ノ布巾ヲ以テ全身ヲ摩擦シ然ル后ニ微温浴ヲ行フヘシ

(9) 小兒ノ假死ハ容易ニ發スル者ニシテ之ヲ救フニハ施術者拇指ヲ患兒ノ肩胛ノ前方ニ手掌ヲ背部ニ當テ肩胛ノ後上方ヲ押サヘ而シテ体ヲ高ク前方ニ起シ後前方ニ屈シテ殆ント水平ト爲ルニ至ラシメ又再ヒ舊位ニ復セシメ反覆シテ胸廓ノ縮張ヲ爲サシムヘシ

(10) 卒中ニ起因スル症(卒然意識即チ氣ヲ失ヒ且半身不遂ヲ起スヲ謂フ)ノ救急法ハ先ツ衣ヲ解放シ半臥位ニ安

シテ温暖ニシ額及頭ハ氷罨法(冷ス法ヲ謂フ)ヲ行ヒ總テ頭部ノ充血及腦ヲ刺戟スル諸因ヲ防クヘシ(患者ノ外圍ヲ閑靜ニシ興奮ノ諸因ヲ避クヘシ)

救急法終

明治二十三年十一月二日 印刷

明治二十三年十月五日 出版

(非賣品)

山形縣羽前國山形市大字旅籠町
三百三拾壹番地ノ内第壹號邸寄留

編纂兼 發行 者 萩 原 貞

山形縣羽前國山形市大字横町
百八十三番地寄留

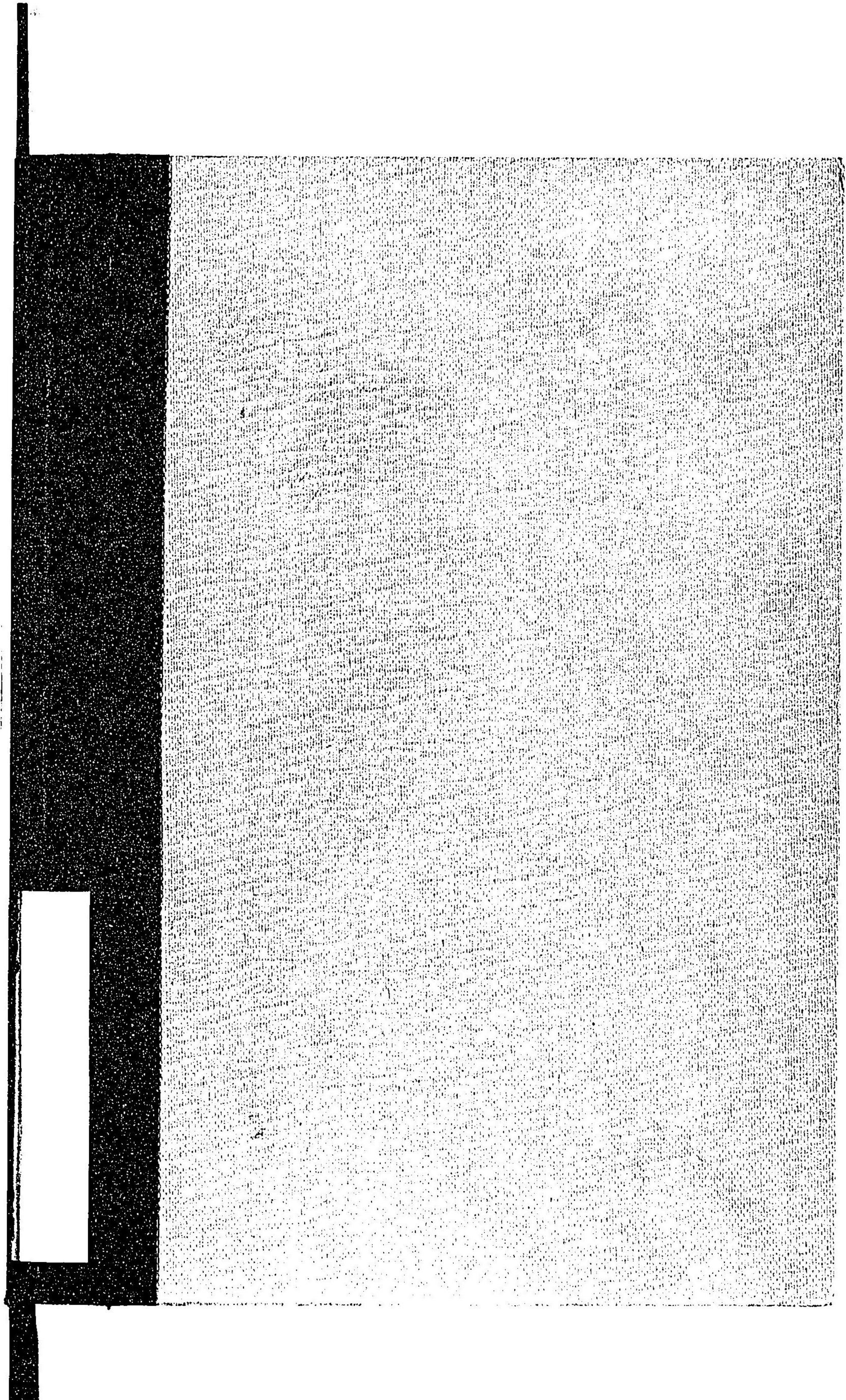
印刷者 菊池豹次郎

山形縣羽前國山形市大字横町
百八十三番地

印刷所

山形印刷會社

EX 421



特 29
917

058567-000-3

特 29-917

救急法

萩原 貞 / 編

M23

CBC-0086

